

第十四條 試驗願書履歷書ノ書式應試驗ノ樣式合格證ノ書式左ノ如シ

僧侶檢定試驗願

用紙美濃野紙

何國何市何町  
郡何村

第何組 何寺衆徒等

氏名

何年何ヶ月

私儀僧綱僧位補授規則第四條ニ依リ何月何日何宗何郡(東京)中學ニ於テ檢定試驗相受度候間許可被下度履歷書并ニ手數料相添此段願上候也

右

明治 年 月 日

氏名印

右寺住職

氏名印

何寺住職

何國第何組長 氏名印

教學部長氏名宛

履歷書

用紙美濃野紙

何國何市何町  
郡何村

第何組何寺衆徒等

氏名

年月日生

本籍

何府何國何市何町何村何字何々何番地誰何男等  
得度及堂班

何年何月何日何國何市何町何村何寺所屬ニテ得度何年何月

何日堂班何々出仕(繼席)

移動

何年何月何日何國何市何町何村何寺ヨリ衆徒移轉等何年何月何日何々ニ付改姓(名)但舊姓(名)何々

學術

何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ入り何年級卒業何年何月ヨリ何年何月マテ何某ニ從ヒ何學ヲ修ム

職務

何年何月何日本山(又ハ何所)ヨリ何々ヲ命セラレ何年何月何日辭職(又ハ解職)

賞罰

何年何月何日本山(又ハ何所)ヨリ何々ニ付賞ヲ受ク  
何年何月何日本山(又ハ何所)ヨリ何々ニ付罰ヲ受ク  
右之通ニ候也

年月日

右

氏名 印

印割

應試證

何國何市何町何村何寺衆徒等

氏名

年月日生

右何月眞宗京都(東京)中學ニ於テ僧位檢定試験ニ應ス  
ルコトヲ許ス

教學部

番號

印割

合格證

何國何市何町何村何寺衆徒等

氏名

右眞宗京都(東京)中學ニ於テ僧位檢定試験ニ合格セリ

第六類 學 專

三三九

依テ之ヲ證ス

年月日

僧位檢定試験委員長 氏 名印

番號

○教學部達第一號 明治三十九年四月二十四日

本年告達第九號ニ基ク認定試験ニハ僧位檢定試験細則ノ規定ヲ準用シ同細則第九條試験科目中宗乘餘乘及說教ニ就キ試験スヘキモノトス

但應試ノ資格ハ年齢ニ拘ハルコトナシ

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款 學階條規

○告達第三號 明治四十年二月二十一日

學階條規

第一條 學階ハ講師副講師擬講師學師ノ四等トシ法主ノ名ヲ以テ之ヲ授與セラル

第二條 講師ハ副講師ノ中ニ就キ法主ノ特旨ヲ以テ之ヲ授與セラル

第三條 副講師ハ擬講師ノ中ニ就キ學德優秀ナル者ヲ選ミ寺務總長ノ上申ニ依リ之ヲ授與セラル

第四條 擬講師ハ學師ノ中ニ就キ教學部長ノ上申ニ依リ左ニ該當スル者ニ之ヲ授與セラル

一 高倉大學寮本科若クハ別科ヲ卒業シタル者

二 前項ト同等以上ノ學德アル者

第五條 學師ハ教學部長ノ上申ニ依リ左ニ該當スル者ニ之ヲ授與セラル

一 眞宗大學本科ヲ卒業シタル者

二 前項ト同等以上ノ學德アル者

第六條 教學部長ハ第四條第二項第五條第二項ニ依リ學階ヲ授與セラル

ヘキモノト認ムル時ハ教學商議會ノ審査ヲ經之ヲ上申スヘキモノトス

第七條 論文ヲ提出シテ學階ヲ求ムル者アル時ハ學師ニ在リテハ擬講其

他ノ者ニ在リテハ學師ノ學階ニ限リ教學商議會ノ審査ヲ經教學部長ノ

上申ニ依リ之ヲ授與セラル

第六類 學 專

第八條 學階ヲ有スル者ノ待遇ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 學階ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ行爲アル時ハ寺務總長若クハ教學部長ノ上申ニ依リ其學階ヲ褫奪セラル

附 則

第十條 本條規ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十一條 舊學階條例ノ規定ニ據リ學師ノ稱號ヲ授與セラレタル者ハ本條規ニ於テ之ヲ認定シ新ニ學階ヲ授與セラレヌシテ學師ノ學階ヲ稱セシムルモノトス

第十二條 舊眞宗高倉大學寮學職ヲ有シタル者若クハ舊學階條例ニ據リ學師ノ稱號ヲ授與セラレタル者ノ中ニ就キ高等ノ資格アル者ハ第一次ノ推薦ニ限リ教學部長ハ特別ヲ以テ上申スルコトヲ得

第十三條 眞宗大學研究院ニ入リ規定ノ試験ヲ經タル者ハ教學部長ノ上申ニ據リ擬請ノ學階ヲ授與セラレ

○條例第二號 明治三十九年十二月六日

明治二十八年告達甲第二十二號學階條例ヲ廢止ス

○告達第十九號 明治三十九年十二月六日

學階條例ノ規定ニ依リ學師ノ稱號ヲ授與セラレタル者ハ當分ノ内仍ホ其學階ヲ稱スルコトヲ得

第三款 安居條例附細則

○條例第二號 明治四十年二月二十一日

安居條例

第一條 安居ハ法主ノ特命ニ依リ講筵ヲ開キ宗義ヲ攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二條 安居ハ夏安居秋安居トシ毎年高倉大學寮講堂ニ於テ講筵ヲ開ク

第三條 夏安居ノ本講ハ宗乘二部トシ講師若クハ副講之ヲ講ス

第四條 夏安居ノ内講ハ餘乘一部トシ擬請之ヲ講ス

第五條 秋安居ノ本講ハ宗乘二部トシ副講若クハ擬請之ヲ講ス

第六條 安居ノ講本及講者ヲ定ムルコトハ法主ノ特旨ニ依ル

第七條 安居中別ニ學師ヲシテ宗門ノ須要ニ應スル學科ヲ副講セシムルコトヲ得

第八條 安居ノ講筵ニ列スルコトヲ得ルハ派内一般ノ僧侶トス

第九條 本條例施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第十條 本條例ハ明治四十年九月一日ヨリ施行ス

第十一條 本條例ニ牴觸スル諸達令ハ本條例施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○所達第五號 明治四十年八月十九日

安居細則左ノ通相定ム

安居細則

第一條 安居ノ講筵ハ毎年左ノ期間之ヲ開ク

夏安居 五月十六日ヨリ七十五日間

秋安居 九月一日ヨリ五十日間

第二條 安居ノ講本及講者ハ宗報ヲ以テ公示ス

第三條 安居ノ講本ニ據リ要義ヲ討論研究セシムル爲擔任講者指導ノ下ニ講究ヲ開ク

第四條 擔任講者ノ講究指導ヲ補佐セシムル爲メ都講ヲ置ク都講ハ擬講學師ノ中ニ就キ之ヲ命ス

第五條 安居中宗門ノ須要ニ應スル學科ヲ副講セシムルコトハ教學部長ノ指定ニ依ル

第六條 安居中休日左ノ如シ

兩度御命日 日曜日

盂蘭盆會 大祭日

第七條 安居ノ講筵ニ列スル者ヲ安居所化トス

安居所化ハ安居ニ懸席スルコトヲ要ス

第八條 安居ニ懸席セントスル者ハ書式(第一號)ニ依リ入衆願書ニ履歷書及入衆料金壹圓ヲ添へ出願スヘシ

第九條 安居所化講筵ニ列セントスルトキハ書式(第二號)ニ依リ保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

前項保證人ハ京都市内ニ居住スル一家ノ戶主ニシテ安居事務所ノ承認シタル者ニ限ル

第十條 安居中典座ヲ置キ講堂ニ於テ安居所化ヲ指揮セシム

典座ハ安居所化中ヨリ選拔シ安居事務所ノ名ヲ以テ之ヲ命ス

第十一條 安居所化ハ左ノ各項ヲ服膺スヘシ

- 一 三寶ヲ恭敬シ道念ヲ修養スヘキコト
- 一 師長ヲ尊重シ道友ヲ信愛スヘキコト
- 一 志操ヲ高潔ニシテ身體ヲ健全ニスヘキコト

第十二條 安居所化前條ヲ忽ニスルトキハ安居士事之ニ戒飭ヲ加ヘ尙俊メサルトキハ安居所化タルノ分限ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第十三條 安居所化僧位ヲ補授セラレタル後連年繼續聽講五夏滿ノ者ハ得業補ニ得業補ニ列セラレタル後連年繼續聽講三夏滿ノ者ハ得業ニ列ス但特例ニヨリ僧位ヲ補授セラレタル者ハ連年繼續聽講十夏滿ヲ以テ得業補ニ列ス

第十四條 安居所化僧位ヲ補授セラレタル後講究ノ成績優等ニシテ連年繼續聽講二夏滿ノ者ハ別ニ定ムル所ノ試験ヲ經テ得業補ニ得業補ニ列セラレタル後講究ノ成績優等ニシテ連年繼續聽講二夏滿ノ者ハ別ニ定

明治十一年  
追所

ムル所ノ試験ヲ經テ得業ニ列スルコトヲ得

第十五條 得業得業補ニ列スヘキ者ハ安居事務所ノ名ヲ以テ辭令ヲ交附ス

第十六條 安居滿講ノ後本講講本ニ就キ聽講試験ヲ行ヒ合格ノ者ニ聽講證書ヲ附與ス

但得業ニ列セラレタル者ニシテ出席點講究點各七十點以上アルトキハ試験ヲ要セス聽講證書ヲ附與スヘシ

第十七條 聽講試験ハ本則第十一條ヲ嚴守シタル安居所化ニシテ出席點六十七點以上ヲ得タルニアラサレハ之ニ應スルコトヲ得ス

第十八條 聽講試験ノ成績點ハ左記四項ノ得點ヲ合セ之ヲ四除シタルモノトス

- 一 前講試験點 前講講本ニ就キ行ヒタル試験ノ成績點
- 一 後講試験點 後講講本ニ就キ行ヒタル試験ノ成績點
- 一 講究點 前講講究點後講々究點ヲ合セ之ヲ二除シタルモノ
- 一 出席點

第十九條 前條ノ點數ハ渾テ一百點ヲ以テ最高點トス

第二十條 聽講試驗成績點六十點以上ナルヲ合格トシ以下ナルヲ不合格トス

一前講試驗點若クハ後講試驗點ノ一四十點以下ナルトキ

一前講試驗點及後講試驗點共ニ五十點點以下ナルトキ

第二十一條 講究及安居所化ノ就學ニ關スル規程並ニ夏講究成績比例ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 安居ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲高倉大學寮内ニ安居事務所ヲ設ケ左ノ職員ヲ置ク

安居主事 一名 親授又ハ稟授

安居書記 若干名 准稟授以下

第二十三條 安居主事ハ教學部長ノ監督ヲ受ケ安居ニ關スル事務ヲ監理ス

第二十四條 安居書記ハ安居主事ノ指揮ニ依リ事務ニ從フ

附 則

第二十五條 本則ハ明治四十年九月一日ヨリ施行ス

第二十六條 従前眞宗高倉大學寮安居ニ懸席シタル者ハ更ニ本則ニ依リ懸席スルヲ要セスシテ安居所化タルモノトス

第二十七條 従前眞宗高倉大學寮ニ於テ得業得業補ノ稱號ヲ授ケラレタル者ハ本則ニ依リ辭令ヲ交附セスシテ得業得業補ノ列ニアルモノトス

第二十八條 従前眞宗高倉大學寮ニ於テ聽講證書ヲ授ケラレタル者ハ本則ニ依リ聽講證書ヲ附與セラレタル者ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

(書式第一號)

入 衆 願

何國何郡何町何字何々

第何組何寺住職等

私儀今般安居懸席仕度候ニ付入衆御許可被成下度依而履歷書并入衆料相添此段願上候也

明治 年 月 日 氏 名

安居事務所御中

履 歴 書

本籍 府國市町字番地華族平民戸主(何某長男等)

僧籍 府國市町字 第何組何寺正住職又ハ衆徒

誕生 何年何月何日

得度 何年何月何日

僧綱並 何年何月何日補何々

住職 何年何月何日申付等

賞罰 何年何月何日何處ニ於テ何々ニ依リ賞又ハ罰ヲ受ク

修學 何年何月ヨリ何年何月迄何學校ニ入り卒業又ハ修了

何年何月ヨリ何年何月迄何某ニ就キ何々修學

右之通り相違無之候也

明治 年 月 日

氏

名

(書式第二號)

聽 講 屆

何國何市何町字何々

第何組何寺住職等

第何號何年何月何日懸席

氏

名

私儀本年度夏(秋)安居ニ出席聽講ハ仕候依テ保證人連署ヲ以テ此段及御届候也

右

明治 年 月 日

氏

名

右(氏名)聽講中本人身許ニ關スル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ其義務ヲ完フスヘク依テ保證候也

京都市上京區何町何番戸

保證人 氏

名

安居事務所御中



第四款 私立高倉大學寮

○條例第一號 明治四十年二月二十一日

私立高倉大學寮條例

第一條 高倉大學寮ハ佛教ノ精要ヲ討尋シ宗義ノ蘊奧ヲ攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二條 高倉大學寮ハ京都ニ設置シ其經費ハ本山ヨリ支給ス

第三條 高倉大學寮ニ本科及別科ヲ置ク

第四條 高倉大學寮ノ修業年限ハ本科別科共ニ四箇年トス

第五條 本科ニ入學スルコトヲ得ルハ眞宗大學本科卒業ノ者ニ限ル

第六條 別科ニ入學スルコトヲ得ルハ學師ノ學階ヲ有スル者ニ限ル

第七條 高倉大學寮ヲ卒業シタル者ニハ學階ヲ陞授セララル

第八條 高倉大學寮ノ學則ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第九條 本條例ハ明治四十年九月一日ヨリ施行ス

第十條 明治三十五年條例第一號眞宗高倉大學寮條例ハ本條例施行ノ日

ヨリ廢止ス

○教學部達第二號 明治四十年八月十九日

私立高倉大學寮職制

第一條 高倉大學寮ニ左ノ職員ヲ置ク

監察 一人 特授

主幹 一人 親授

教授 若干人 特授又ハ親授

舍監 若干人 專授

書記 若干人 專授已下

第二條 監察ハ教學部長ノ監督チウケ高倉大學寮一般ノ事ヲ管理ス其職務ノ要領左ノ如シ

一 主幹已下ヲ董督シ職員ノ功過進退ニ關シ意見ヲ具申スルコト

一 高倉大學寮條例及高倉大學寮ニ關スル條規ノ範圍ニ於テ細則ヲ設

クルコト

一 高倉大學寮ニ于スル條規ニ改正ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキ

一 本案ヲ具シテ上申スルコトハ重大ナルコトハ上申シ他ハ其責任ヲ以テ  
一 規程ナキ事項ニ干シテハ重大ナルコトハ上申シ他ハ其責任ヲ以テ  
一 決行スルコト

第三條 主幹ハ教務庶務及會計ヲ兼理ス  
監察事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第四條 教授ハ學業ヲ授ケ研究ヲ指導ス

教務上意見アルトキハ主幹ヲ經テ監察ニ申出ツルコトヲ得

第五條 舍監ハ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 書記ハ上長ノ指揮ヲ受ケ教務庶務及會計ニ従事ス

附 則

第七條 本職制ハ明治四十年九月一日ヨリ施行ス

○告示第十五號 明治四十年八月十九日

私立高倉大學寮

右專門學校令ニ依ルノ件本月十六日文部大臣ヨリ認可セラレ

○私立高倉大學寮學則 明治四十年八月十五日文部大臣許可

第一章 總 則

第一條 本寮ハ眞宗大谷派本山達令高倉大學寮條例ニ基キ佛教ノ精要ヲ  
討尋シ宗義ノ蘊奧ヲ攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二章 學科、修業、年限

第二條 本寮ニハ本科及別科ヲ置ク

第三條 本寮ノ學課目並ニ程度ハ別表ノ如シ

第四條 本寮ノ修業年限ハ本科別科共ニ四ヶ年トス

第三章 學年、學期、休業

第五條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ別テ左ノ三學期トス

第一學期 九月一日ヨリ翌年一月十日ニ至ル

第二學期 一月十一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第七條 定例休日左ノ如シ  
日 曜 日 大 祭 日  
本寮夏安居開講日五月十六日

夏期休業

七月十六日ヨリ

九月十日ニ至ル

冬期休業

十二月二十五日ヨリ

翌年一月十日ニ至ル

第四章 入學、在學

第八條 入學期ハ每學年ノ始トス

第九條 本寮ノ本科別科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ資格ヲ具備スルヲ要ス

- 一 年齢滿二十年以上ナルコト
- 一 身體健在ナルコト
- 一 品行方正ナルコト
- 一 本則第十條又ハ第十一條ニ適應スルコト

第十條 本科ニ入學スルコトヲ得ルハ私立眞宗大學本科卒業ノ者ニ限ル

第十一條 別科ニ入學スルコトヲ得ルハ學師ノ學階ヲ有スルモノニ限ル

第十二條 入學志願者ハ規定ノ書式ニ準シ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ願ヒ出スヘキ者トス

第十三條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ規定ノ書式ニ準シ所屬寺住職又ハ父兄京都市在住ノ保證人連署ノ在學證書ヲ本寮指定ノ期日迄ニ差出スヘシ

第十四條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツルモノ又ハ本寮ニ於テ適當ナリト認めタル者ニ限ル

第十五條 保證人轉居改印等ノ事アル時ハ其旨直ニ届出ツヘク三週間以上旅行セントスル時ハ相當ノ代理者ヲ立テ發程前ニ届出スヘシ若シ又死去等ノ事アル時ハ被保證者ハ直ニ之ヲ補缺シ其保證人ヲシテ證書ヲ差出サシムヘシ

第十六條 病氣又ハ事故ニヨリ缺課セントスル時ハ寄宿員ハ舍監ノ證明ヲ得テ其當日ニ通學員ハ保證人連署ノ上其當日又ハ翌日午前中届ツヘシ

但シ病氣ノ爲メ缺課三日以上ニ及フ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十七條 缺席届出ノ日數一ヶ月ヲ踰エルヲ得ス若シ一ヶ月ヲ經過シ其事由尙ホ止マサル時ハ新ニ手續ヲ爲スヲ要ス

第五章 休學、退學

第十八條 疾病其他不得止事故ニヨリ二ヶ月以上修學スルコト能ハサル者ハ其學年間休業スルコトヲ得

第十九條 休學セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出テ

監察ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入り修學スルモノトス

第二十一條 休學ノ許可ハ同一學年ニアル間ハ一回ニ限ル

第二十二條 退學セントスル者ハ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ

監察ノ指揮ヲ待ツヘシ

但シ願ニヨリ退學セシモノ再ビ入學ヲ請フトキハ詮議ノ上原級へ編入ヲ許スコトアルヘシ

第二十三條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ引續キ一ヶ年以上缺席シタルモノ又ハ正當ノ理由ナクシテ一ヶ月以上缺席シタルモノハ學籍ヲ除ク

第六章 試験、進級、卒業

第二十四條 各學年課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業品行及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムルモノトス

第二十五條 試験ハ臨時學期學年ノ三種トス

第二十六條 臨時試験ハ每學年中受持教授ノ見込ニヨリ之ヲ行フモノトス

第二十七條 學期試験ハ第一學期及第二學期ノ終リニ於テ其學期中履修セシ課目ニツキ之ヲ行フモノトス

第二十八條 學年試験ハ學年ノ終リニ於テ學年中ニ履修シタル諸學科全部ニツキ之ヲ行フモノトス

第二十九條 試験ノ評點一百ヲ以テ最高點トシ六十點ヲ以テ合格點トス

第三十條 第一學期及第二學期ノ評點ハ當該學期ノ試験點ニ平常點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第三十一條 學年試験點ハ學年試験點ニ第三學期間ノ平常點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第六類 學 事

第三十二條 學年ノ評點ハ第一學期及ヒ第二學期ノ評點ヲ平均シ之ニ學年試驗點ヲ加ヘ其和ヲ二除シテ得ルモノトス

第三十三條 學年ノ終リニ於テ諸課目學年評點平均數六十以上ニシテ左ノ一二該當スルモノハ進級セシメ其他ノ者ハ原級ニ止マラシム

第一 各課目ノ學年評點總テ六十以上ノモノ  
第二 學年ノ評點宗乘ハ六十以上ニシテ他學科中六十未滿ノ科目一科ニ止マリ四十點以上アルモノ

第三 學年ノ評點宗乘ハ六十以上ヲ有シ他ノ學科中六十未滿ノ科目數全科目數ノ三分ノ一以內ニシテ各五十點以上アリ學年試驗ノ總平均七十以上ノモノ

第三十四條 學期試驗ニ缺席シタルモノハ事故ノ何タルヲ問ハス追試驗ヲ許サス

第三十五條 第一若クハ第二學期ニ缺席シタルモノハ事由ノ明確ナルモノニ限り詮議ノ上當該學期ノ平常點ヲ參酌シテ他學期評點ノ六分以下ノ推定點ヲ附スルコトアルヘシ

第三十六條 疾病其他ノ事故ニヨリ學年試驗ニ缺席シタルモノハ既得ノ評點各六十以上ナル時ハ願ニヨリ次學年ノ始メニ於テ追試驗ヲ許スコトアルヘシ

第三十七條 本科及別科ノ最上級ニ於テ進級ニ合格シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第七章 賞 罰

第三十八條 學力優等品行方正ナル者ニハ特ニ學資ノ幾分ヲ給與スルコトアルヘシ

第三十九條 性行不良ニシテ改善ノ見込ナキモノ又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキモノハ退學ニ處ス

第四十條 前條ノ外規則及命令ニ違背シ又ハ風紀ヲ害スルモノハ其輕重ニヨリ誡飭、禁足、停學、退學ニ處ス

第四十一條 停學處分ヲ受ケタルモノハ本則第三十五條第三十六條規定ノ特典ヲ受ケルコトヲ得ス

第八章 授業料、入學手数料

第六類 學 事

第四十二條 派内ノ僧侶ニハ授業料ヲ徵集セス其他ノ者ニアリテハ一學  
年金拾八圓ヲ徵集ス

但シ事宜ニヨリ免除スルコトアルヘシ

第四十三條 入學手數料ハ本科別科ヲ問ハス何レモ金壹圓ヲ入學願書ト  
共ニ納附セシム

第九章 學員心得

第四十四條 本寮ノ學員ハ必ス左ノ三項ヲ服膺スヘシ

第一 三寶ヲ崇敬シ道念ヲ修養スヘキコト

第二 師長ヲ尊重シ學友ヲ信愛スヘキコト

第三 志操ヲ高潔ニシ自體ヲ健全ニスヘキコト

第四十五條 學員ハ本寮ノ制服ヲ着用威儀ヲ正シクスヘシ

第十章 寄宿舍規則

第四十六條 寄宿舍ハ本寮ノ學員ヲシテ寄宿修學セシムヘキ所ニシテ舍  
監之ヲ監督ス

但シ適當ナル事故アリト認ムルモノハ本人ノ願ニヨリ通學セシムト

雖モ亦舍監ノ監督ヲ受ケシム

第四十七條 學員ハ舍内ノ整頓秩序ニ妨害アル所行ヲ爲シ又ハ物品ヲ携  
帶スルヲ得ス

第四十八條 外出時間ハ平日ハ放課後休業日ハ晨朝勤行後ヨリ門限迄ト  
ス

第四十九條 止ムヲ得サル事故アリテ門限ニ遅レ若クハ臨時外出又ハ外  
宿ヲ要スル時ハ豫メ其事由ヲ舍監ニ申出テ指押ヲ受ケヘシ

第五十條 豫メ届出スシテ歸寮ノ定刻ニ遅レ又ハ止ムヲ得サル事故アリ  
外宿シタルモノハ其旨舍監ニ申出テ指押ヲ俟ツヘシ

第五十一條 疾病ニテ勤行不參又ハ授業ニ欠席セントスル時ハ時間前ニ  
舍監ヘ届出スヘシ

第五十二條 輕症ノ疾病ニ罹リタル時ハ室内ニ於テ醫療ヲ受ケル事ヲ得  
ルモ其病症ニヨリ臨機下宿ヲ命シ又ハ入院セシムルコトアルヘシ

第五十三條 學員ハ病氣ニ罹リ醫師ノ意見ニ依リ舍監ノ特許ヲ得タルノ  
外室内ニ於テ食事ヲ爲スヲ得ス

第五十四條 非常異變ノ外午後九時ヨリ晨朝迄ノ間ハ一切寮門ハ出入ヲ許サス

第十一章 職員

第五十五條 本寮ニ左ノ職員ヲ置ク

監察 主幹 教授 舍監 書記

第五十六條 監察ハ教學部長ノ監督ヲ受ケ高倉大學寮條例ノ規定ニヨリ

本寮一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督シ本寮ヲ代表ス

第五十七條 主幹ハ監察ノ命ヲ受ケ寮務ヲ管理シ監察ノ欠員若クハ事故アル時ハ其職務ヲ代理ス

第五十八條 教授ハ學業ヲ授ケ其研究ヲ指導ス

第五十九條 舍監ハ監察ノ命ヲ受ケ寄宿舎ニ關スル事項ヲ掌ル

第六十條 書記ハ上長ノ指揮ヲ承ケ寮務ニ従事ス

(別表)

私立高倉大學寮學科課程表 (本科別科共)

合計數	教導 說演 教說	餘乘		宗乘 要經 論義 釋釋	年第一 級 時間 每週	年第二 級 時間 每週	年第三 級 時間 每週	年第四 級 時間 每週
		天台 科 俱 舍	華嚴 科 唯 識					
二三	二	十	十	十				
	同上	同上	同上	同上				
二三	二	十	十	十				
	同上	同上	同上	同上				
二三	二	十	十	十				
	同上	同上	同上	同上				
二三	二	十	十	十				
	同上	同上	同上	同上				
二三	二	十	十	十				
	同上	同上	同上	同上				

一右表中餘乘ニ限リ第一年級ヨリ第三年級ニ至ルニ學級ヲ華嚴科天台科

一ノ二ニ分子學員ノ志願ニ依リ其一科ヲ授ル者トス  
 一本學科ノ外宗門ニ須要ナル學科ヲ附科若ハ隨意科トシテ課スル事有ヘシ  
 一各學科ノ授課時間數ハ都合ニヨリ變更スルコトアルヘシ  
 但シ各科一週二十時以上トス

(願書様式)

入學願	(用紙美濃野紙)
何府縣何國何市郡何町村	何寺正副住職若クハ衆徒
學師	何
某	

今般御寮(本科)第一年級へ入學致度候ニ付御許可被成下度別紙履歷書及手數料相添へ此段願上候也

明治年月日 右 何 某

(住職ニ非ラサルモノハ此處住職ノ連署ヲ要ス)

私立高倉大學寮監察宛

(備考) 明治三十三年度以後ノ眞宗大學卒業ノ學師ヲ本科トシ其他ノ學師ハ總テ別科トス

氏名	何某(振リ假名ヲ附スヘシ)
誕生	明治何年何月何日
原籍	何府縣何國何市郡何町何村何番地何某何男(弟又ハ)
所屬寺	何府何縣何國何市郡何町何村何宗何派何寺住職
得度	何年何月何日受式
學師	何年何月何日稱號拜受
僧業	何年何月何日補何々
學業	何年何月何日何年何月迄何學校ニ入り何年級迄修了
賞罰	何年何月ヨリ何年何月迄何某ニ就キ何學修業等
賞	何年何月何日何所ニ於テ何々ニ依リ賞若クハ罰ヲ受
賞	何年何月何日何所ニ於テ何々ニ依リ賞若クハ罰ヲ受

右之通り相違無之候也

右本人 何 某



○告達第九號 明治三十八年二月二十二日

明治三十四年告達第九號所定ノ眞宗大學眞宗中學教職員依用役輪袈裟ハ  
自今眞宗高倉大學寮教職員ニ於テ依用スルコトヲ得

○高倉大學寮學員依用輪袈裟 明治四十年九月一日  
告達十二號

高倉大學寮依用輪袈裟左ノ通相定ム  
錆藍色地茶葉牡丹紋輪袈裟

第五款 私立眞宗大學

○條例第六號 明治三十二年五月十七日

眞宗大學條例

第一條 眞宗大學ハ宗門ノ須要ニ應スル學科ヲ教授シ及其蘊奧ヲ研究セ  
シムルヲ以テ目的トス

第二條 眞宗大學ハ東京ニ設置シ研究院本科及豫科ヲ以テ構成ス

第三條 豫科ハ修業年限ヲ二箇年トシ本科ニ入ラント欲スルモノニ須要  
ナル學科ヲ教授スル所トス

明治三十三年  
十二月  
改正

明治三十三年  
六月  
正條例改

第四條 本科ハ修業年限ヲ三箇年トシ宗門ノ須要ニ應スル學科ヲ教授ス  
ル所トス

第五條 本科ヲ分チテ第一部第二部第三部トス

第六條 豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ眞宗中學卒業ノ者又ハ之ト同等  
ノ學力ヲ有スルモノトス

第七條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ大學豫科卒業ノモノトス

第八條 研究院ハ研究年限ヲ五箇年トシ宗門ノ須要ニ應スル學科ノ蘊奧  
ヲ研究スル所トス

第九條 研究院ニ入ルコトヲ得ル者ハ本科卒業ノモノトス

第十條 本科卒業ノ者及研究院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ニハ相當ノ  
學階ヲ授與ス但學階ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 眞宗大學ノ經費ハ本山ヨリ支給ス

第十二條 眞宗大學ノ學科及課程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本條例施行上必要ナル細則ハ勸學局長之ヲ定ム

附 則

第六類 學 事

第十四條 本條例ハ明治三十二年九月一日ヨリ施行ス

第十五條 明治二十九年六月告達甲第一號眞宗大學條例ハ本條例ノ施行  
ノ日ヨリ廢止ス但シ本條例施行ノ日ヨリ本科及撰科二年級以上ノ所化  
ハ從來ノ學科ニ依ルコトヲ得

○教學部達第一號 明治三十六年八月一日

私立眞宗大學職制

第一條 私立眞宗大學ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學 監 一人 親授以上 主 幹 一人 稟授以上
- 教 授 若干人 稟授以上 助 教 授 若干人 稟授又ハ例授
- 圖 書 館 長 一人 稟 授 圖 書 掛 若干人 稟授以下
- 書 記 若干人 稟授以下

第二條 學監ハ教學部長ノ指揮ヲ受ケ眞宗大學一般ノ事ヲ管理ス其職務  
ノ要領左ノ如シ

- 一 主幹以下ヲ監督シ例授以上職員ノ功過進退ハ意見ヲ具シテ上申シ  
囑托教授及級外職員ニ關シテハ之ヲ專行スルコト

一 大學條例及大學ニ關スル條規ノ範圍内ニ於テ細則ヲ設ルコト

一 大學ニ關スル條規ニ改正ヲ加ルノ必要アリト認ムルトキハ案ヲ具  
シテ上申スルコト

一 規程ナキ事項ニ關シテハ重大ノ事ハ上申シ他ハ其責任ヲ以テ決行  
スルコト

第三條 主幹ハ教務庶務及會計ヲ掌理ス

學監事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス

第四條 教授助教授ハ所化ノ教育ヲ掌ル  
教務上意見アル時ハ主幹ヲ經テ學監ニ申出ツルコトヲ得

第五條 舍監ハ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 圖書館長ハ圖書館ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 圖書掛ハ圖書館長ノ指揮ヲ受ケ圖書保管及閱覽ニ關スル事務ニ從フ

第八條 書記ハ上長ノ指揮ヲ受ケ教務庶務及會計ニ從事ス

○告示第二號 明治三十三年二月二十四日

眞宗大學ヲ徵兵令第十三條ニヨリ認定ノ旨本月二十三日付ヲ以テ文部大

臣ヨリ告示セラル

○告示第十六號 明治三十七年五月十日

私立真宗大學

右專門學校令ニ依ルノ件本月四日文科大臣ヨリ認可セラル

○私立真宗大學學則

第一章 總 則

第一條 本學ハ大谷派本山達令真宗大學條例ニ基キ宗門ノ須要ニ應スル  
學科ヲ教授シ及ヒ其蘊奧ヲ研究セシムルヲ以テ目的トス

第二章 學科、修業年限

第二條 本學ニハ豫科本科及研究院ヲ置ク

第三條 豫科ハ修業年限ヲ二ケ年トシ本科ニ入ラント欲スル者ノ爲メニ  
須要ナル學科ヲ教授スル所トス

第四條 本科ハ修業年限ヲ三ケ年トシ本學豫科ヲ卒業シタルモノヲ入學  
セシメ宗門ノ須要ニ應スル學科ヲ教授スル所トス

第五條 本科ヲ分テ第一部第二部第三部トス

第六條 研究院ハ研究年限ヲ五ケ年トシ本學本科ヲ卒業シタルモノヲ入

學セシメ宗門ノ須要ニ應スル學科ノ蘊奧ヲ研究セシムル所トス

研究院ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 本學豫科及本科各部ノ學科目并ニ其程度ハ別表ノ如シ

第三章 學年、學期、休業

第八條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル

第九條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第二學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第十條 定例休日左ノ如シ

日曜日 大祭日 本學紀念日十月十三日

宗祖報恩講

十一月二十四日ヨリ  
同 二十八日マテ

冬期休業

十二月二十五日ヨリ  
一月十日マテ

夏期休業

七月十一日ヨリ  
九月十日マテ

第四章 入學、在學

第十一條 入學ノ期ハ每學年ノ始トス

第十二條 本學豫科第一年級ニ入學スルコトヲ得ルモノハ左ノ資格ヲ具備スルヲ要ス

- 一 年齡滿十七年以上ナルコト
- 二 身體健全ナルコト
- 三 品行方正ナルコト
- 一 專門學校令ニヨリ專門學校ニ入學スルコトヲ得ル學歷ノ資格ヲ有シ本則第十三條第十四條第十五條ノ一ニ應スルコト

第十三條 專門學校入學者檢定規程第八條ニヨリ文部大臣ノ指定ヲ受ケタル私立眞宗京都中學私立眞宗東京中學ノ卒業者ハ當該學長ノ證明ニヨリ成績銓考ノ上豫科第一年級へ入學ヲ許ス

第十四條 官公立中學校卒業者ハ當該校長ノ證明ニヨリ成績銓考ノ上宗乘餘乘ノ學科試驗ヲ行ヒ豫科第一年級へ入學ヲ許ス  
專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗ニ合格シタルモノハ本條ヲ準用ス

第十五條 徵兵令第十三條ニヨリ認定ヲ受ケタル私立中學校ノ卒業者若クハ專門學校入學者檢定規程第八條ニヨリ指定ヲ受ケタル他派學校ノ卒業者ハ當該校長ノ證明ニヨリ銓考ノ上宗乘餘乘國語漢文外國語ニ限リ試驗ノ上豫科第一年級へ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十六條 豫科第二年級ニ入學セントスルモノハ豫科第一年級へ入學ノ資格ヲ具シ且豫科第一年級諸學科ノ試驗ヲ受ケコレニ合格スルヲ要ス

第十七條 本科ニ入學スルコトヲ得ルモノハ本學豫科卒業ノモノニ限ル  
第十八條 研究院ニ入ルコトヲ得ルモノハ本學本科卒業ノモノニ限ル  
第十九條 入學志願者ハ規定ノ書式ニ準シ入學願書ニ履歷書及當該學校長ノ證明書ヲ添ヘ願ヒ出ツヘキモノトス

第二十條 願ニ依リ退學セシモノ再ヒ入學ヲ請フトキハ詮議ノ上原級へ編入ヲ許可スルコトアルヘシ  
第二十一條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ規定ノ書式ニ準シ所屬寺住職又ハ父兄及本學附近ノ保證人連署ノ在學證書ヲ本學指定ノ期日マテニ差

出スヘシ

第二十二條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツルモノ又ハ本學ニ於テ適當ナリト認メタルモノニ限ル

第二十三條 保證人轉居改印等ノ事アルトキハ其旨直ニ届出ツヘク三週間以上旅行セントスル時ハ相當ノ代理者ヲ立テ發程前ニ之ヲ届出ツヘシ若シ又死去等ノコトアルトキハ被保證者ハ直ニ之ニ補缺シ其保證人ヲシテ證書ヲ差出サシムヘシ

第二十四條 病氣或ハ事故ニヨリ缺課セントスルトキハ寄宿生ハ舍監ノ證明ヲ得テ其當日中ニ通學生ハ保證人連署ノ上其當日又ハ翌日午前中ニ届出ツヘシ  
但病氣ノ爲缺課三日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十五條 缺席届出ノ日數ハ一ヶ月ヲ踰ユルヲ得ス若シ一ヶ月ヲ經過シ其事由尙ホ止マサルトキハ其都度新ニ其手續ヲ爲スヲ要ス

第五章 休學、退學

第二十六條 疾病其他不得已事故ニヨリ二ヶ月以上修學スルコト能ハサルモノハ其學年間休學スルコトヲ得

第二十七條 休學セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出テ學監ノ許可ヲ受クヘシ

第二十八條 休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學年ノ始メヨリ其原級ニ入り修學スルモノトス

第二十九條 休學ノ許可ハ同一學級ニアル間ハ一回ニ限ル

第三十條 退學セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ學監ノ指揮ヲ待ツヘシ

第三十一條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ引續キ一ヶ年以上缺席シタルモノ又ハ正當理由ナクシテ一ヶ月以上缺席シタルモノハ學籍ヲ除ク

第六章 試験及進級、卒業

第三十二條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平常ノ學業、品行及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムルモノトス

第三十三條 試験ハ臨時學期學年ノ三種トス

第三十四條 臨時試験ハ每學期中受持教員ノ見込ニヨリ之ヲ行フ者トス

第六類 學 事

第三十五條 學期試驗ハ第一學期及第二學期ノ終リニ於テ其學期中履修セシ課目ニツキ之ヲ行フモノトス

第三十六條 學年試驗ハ學年ノ終ニ於テ學年中ニ履修シタル諸學科ノ全部ニツキ之ヲ行フモノトス

第三十七條 試驗ノ評點ハ一百ヲ以テ最高點トシ六十以上ヲ以テ合格點トス

第三十八條 第一學期及第二學期ノ評點ハ當該學期ノ試驗點ニ平常點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第三十九條 學年試驗點ハ學年試驗點ニ第三學期間ノ平常點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四十條 學年ノ評點ハ第一學期及第二學期ノ評點ヲ平均シ之ニ學年試驗點ヲ加ヘ其和ヲ二除シテ得ルモノトス

第四十一條 學年ノ終リニ於テ諸課目學年評點平均數六十以上ニシテ左ノ一二該當スルモノハ進級セシメ其他ノモノハ原級ニ留マラシム

第一 各課目ノ學年評點總テ六十以上ノモノ

第二 學年ノ評點宗餘乘ハ六十以上ニシテ他ノ學科中六十未滿ノ課目一科ニ止リ四十點以上アルモノ

第三 學年ノ評點宗餘乘ハ六十以上ヲ有シ他ノ學科中六十未滿ノ課目數全課目數ノ三分一以內ニシテ各五十點以上アリ學年試驗ノ總平均七十以上ノモノ

第四十二條 學期試驗ニ缺席シタルモノハ事故ノ何タルヲ問ハス追試驗ヲ許サス

第四十三條 第一若クハ第二學期試驗ニ缺席シタルモノハ其事由ノ明確ナルモノニ限リ該議ノ上當該學期ノ平常點ヲ參酌シテ他學期評點ノ六分以下ノ推定點ヲ附スルコトアルヘシ

第四十四條 疾病其他ノ事故ニヨリ學年試驗ニ缺席シタルモノハ既得ノ評點各科六十以上ナルトキハ願ニヨリ次學年ノ始ニ於テ追試驗ヲ許スコトアルヘシ

第四十五條 豫科及本科ノ最上級ニ於テ進級ニ合格シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第七章 賞 罰

第四十六條 學力優等品行方正ナルモノニハ學資ノ幾分ヲ給與スルコト  
アルヘシ

第四十七條 所化不似合ノ所行アルモノ又ハ成業ノ見込ナキモノハ退學  
ニ處ス

第四十八條 前條ノ外規則及命令ニ違犯シ又ハ風紀ヲ害スルモノハ其輕  
重ニヨリ停學禁足誡飭ニ處ス

第四十九條 停學ノ處分ヲ受ケタルモノハ本則第四十三條第四十四條規  
定ノ特典ヲ享ケルコトヲ得ス

第八章 授業料入學手数料

第五十條 派内ノ僧侶ニハ授業料ヲ徵集セス其他ノモノニ在テハ一學年  
金拾貳圓ヲ徵集ス

但シ事宜ニヨリ免除スルコトアルヘシ

第五十一條 入學手数料ハ本則第十三條ニ該當スルモノニハ金壹圓第十  
四條ニ該當スルモノニハ金貳圓其他ノモノニ在テハ金參圓ヲ入學願書

ト共ニ納付セシム

第九章 生徒心得

第五十二條 本學所化ハ左ノ三項ヲ服膺シ須臾モ忽緒ニスヘカラス

第一 宗義ヲ信奉シ智徳ヲ粹礪シ布教傳道ノ基ヲ建ツヘキ事

第二 師長ヲ敬重シ學友ヲ信愛シ所化ノ本分ヲ守ルヘキ事

第三 心志高尚行爲廉潔身體強壯ヲ期圖スヘキ事

第五十三條 所化ハ本學ノ制服ヲ着用シ威儀ヲ正シクスヘシ

第十章 寄宿舎規則

第五十四條 寄宿舎ハ本學所化ノ總テヲシテ寄宿修學セシムヘキ所ニシ  
テ舍監之ヲ監督ス

但シ事情ニヨリ通學セシムル者アリト雖モ亦舍監ノ監督ヲ受ケシム

第五十五條 寄宿舎ハ皆ニ修學ノ便ヲ謀リタルノミナラス所化ノ品位ヲ  
進メ特ニ其道德ヲ修養セシムルヲ以テ目的トス

第五十六條 研究院所化ニシテ學監ニ於テ適當ナル事故アリト認ムルモ  
ノハ本人ノ願ニヨリ通學ヲ許スコトアルヘシ

第六類 學 事

第五十七條 本科所化ニシテ保證人二名連署ヲ以テ願出ツル者アルトキハ學監ニ於テ確實ナル監督者アリト認ムルモノニ限り通學ヲ許スコトアルヘシ

第五十八條 豫科所化ニシテ不得已事情ニヨリ保證人二名連署ヲ以テ通學ヲ願出ツル者ハ自宅又ハ父兄其他直系尊族居室ヨリスルモノニ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十九條 所化ハ舍内ノ整頓秩序ニ妨害アル所行ヲ爲シ又ハ其物品ヲ携出スルヲ禁ス

第六十條 外出時限ハ平日ハ放課後休業日ハ晨朝勤行後ヨリ門限迄トス第六十一條 止ムヲ得サル事故アリテ門限ヲ延期シ若クハ臨時外出又ハ

外宿センコトヲ要スル時ハ豫メ其事故ヲ舍監ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ第六十二條 豫メ届出スシテ歸學ノ定刻ニ後シ又ハ止ムヲ得サル事故アリテ外宿シタルモノハ其旨舍監ニ申出テ指揮ヲ待ツヘシ

第六十三條 疾病ニテ勤行不參又ハ授業ニ缺席セントスルトキハ時間前ニ舍監へ届出ツヘシ

第六十四條 輕症ノ疾病ニ罹リタルトキハ室内ニ於テ醫療ヲ受ルコトヲ

得ルモ其病症ニヨリ臨機下宿ヲ命シ又ハ入院セシムルコトアルヘシ

第六十五條 所化病氣ニ罹リ醫師ノ意見ニヨリ舍監ノ特許ヲ得タルノ外室内ニ於テ食事ヲ爲スヲ得ス

第六十六條 非常異變ノ外午後九時ヨリ晨起マテノ間ハ一切校門ノ出入ヲ許サス

第十一章 職員

第六十七條 本學ニ左ノ職員ヲ置ク

學監、主幹、教授、助教授、舍監、圖書館長、圖書係、書記

第六十八條 學監ハ教學部長ノ監督ヲ承ケ眞宗大學條例ノ規定ニヨリ本學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督シ本學ヲ代表ス

第六十九條 主幹ハ學監ノ命ヲ承ケ教務庶務及會計ヲ管理シ學監ノ缺員若クハ事故アル時ハ其職務ヲ代理ス

第七十條 教授助教授ハ學業ヲ所化ニ教授シ其研究ヲ指導ス

第七十一條 舍監ハ學監ノ命ヲ承ケ所化ノ取締ニ關スル事項ヲ掌ル

第六類 學 專



第七十二條 圖書館長ノ學監ノ命ヲ承ケ圖書館ニ關スル事務ヲ掌ル

第七十三條 圖書係ハ圖書館長ノ指揮ヲ承ケ圖書保管及閱覽ニ關スル事

務ニ從フ

第七十四條 書記ハ上長ノ指揮ヲ承ケ教務庶務及會計ニ從事ス

○私立眞宗大學研究院入學制限ノ件

條例第三號 明治四十年二月二十一日

眞宗大學研究院ハ明治四十年九月一日已後入學ヲ許サス

○私立眞宗大學校舍移轉ノ件

告示第二十二號 明治三十四年七月三日

眞宗大學

右本年九月ヨリ東京府北豐島郡栗鴨村新築校舍ニ移轉ス

○私立眞宗大學一般所化給費廢止ノ件

部達第一號 明治三十七年七月二十九日

寺務御改正經費節減ノ都合ニヨリ本年九月以後其學一般所化給費ヲ廢止

ス

○告達第九號 明治三十四年三月二十二日

眞宗大學眞宗中學教職員依用紋輪袈裟左ノ通相定メ候條其職ニアラサル

者ハ同様若クハ類似ノ品着用相成ラス

一 土草色同色唐井筒葉牡丹紋白縁金輪袈裟

右裏授以上

一 土草色同色唐井筒葉牡丹紋白輪袈裟

右例授

附 則

本則ハ明治三十四年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年告達第十六號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○告達第十號 明治三十四年三月二十五日

眞宗大學所化服制

第一條 眞宗大學所化服制左ノ通相定ム

一 法服、小衣、地氈、セル、又ハ「フクヤン」

淺黃色威儀麻墨袈裟

一 被服、詰襟背廣形

色、黒又ハ紺、但夏期ハ藍鼠又ハ霜降リ

釦、地模樣葉牡丹ニ大學 金色鍍金

一 帽子、圓形黒色羅紗

徽章、眞大字篆書、金色鍍金

第二條 式事及教室ニ於テハ法服ヲ着シ其他ノ場合ニハ被服ヲ用ユヘシ  
附 則

第三條 本服制ハ明治三十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本服制施行ノ日ヨリ明治三十二年告達第八號ヲ廢止シ明治二十七年告  
達第二十號同年告達第二十四號明治三十二年告達第六號ヲ改メテ眞宗  
中學所化服制トス

第六款 私立眞宗中學

○條例第五號 明治三十二年五月四日

眞宗中學條例

第一條 眞宗中學ハ眞宗ノ僧侶ニ須要ナル高等普通教育ヲ施ス所トス

第二條 眞宗中學ハ京都東京ニ設置シ其經費ハ本山ヨリ支給ス

第三條 眞宗中學ハ修業年限ヲ五ヶ年トス

第四條 眞宗中學本科一年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等小學第三學年  
ノ課程ヲ修了セル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トス

第五條 眞宗中學ノ學科及課程ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 眞宗中學ノ教科書ハ勸學局長ノ認可ヲ經テ學長之ヲ定ム

第七條 眞宗中學卒業生ニシテ寺院住職ヲラント欲スル者ノ爲ニ京都東  
京兩中學ニ一箇年ノ實修科ヲ置ク其學科及課程ハ別ニ之ヲ定ム

但シ尋常中學程度以上ノ學校卒業生ニシテ本條ニ依ル者ハ二箇年ノ  
實修ヲナサシム

第八條 止テ得サル事情ニ依リ學費ヲ支辨スルコト能ハサル者ノ爲メニ  
學資金ヲ補助ス

但シ學資金補助法ハ別ニ條例ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 此條例施行上必要ナル細則ハ勸學局長之ヲ定ム

附則

第十條 本條例ハ明治三十二年九月一日ヨリ施行ス

第十一條 明治二十九年六月告達甲第二號及明治三十年八月告達甲第七

號真宗中學條例ハ本條例ノ施行ノ日ヨリ廢止ス

但シ設備上都合ニヨリ「當分」左ノ三中學ヲ存置シ其學科ハ三學年

ニ止ム

米北中學 加賀中學 久留米中學

各中學現在三年級以上ノ所化ニシテ直ニ本條ヲ適用シ難キ者ノ爲勸學

局長ハ別ニ學科ヲ定ム

議制局會議ノ議ヲ經タル真宗中學條例中改正ノ件ヲ允可シ茲ニ之ヲ發

布セシム

明治三十二年十二月二十八日

大谷勝條

條例第十一號

真宗中學條例第十一條但書中「當分」ノ二字ヲ「明治三十三年八月三十

日限リ」ニ改ム

○告達第二十九號 明治三十二年十二月二十八日

大谷派私立真宗中學設立認可及取締規則

第一條 一私人又ハ團體ニ於テ私立真宗中學ヲ設立セントスル時ハ其設

立者又ハ設立代表者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ勸學局ヘ願出

テ其認可ヲ請フヘシ

一 名稱

二 位置

三 學則

四 教科用書

五 生徒ノ定員

六 設立者又ハ設立代表者ノ略歴履歷

七 學長若シクハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ノ履歷

八 年度ノ收入支出ノ豫算表及維持方法

九 編制及設備ニ關スル事項

十 校舍寄宿舎校地ノ圖面

前項校地ノ圖面ニハ其所有者者面積地質體操場ノ區域並ニ附近ノ狀況ヲ  
記入シ且飲用水ノ定性分拆表ヲ添附スヘシ

第二條 前條ノ出願ニヨリ勸學局長ノ認出スヘキ學校ハ明治三十二年八  
月勅令第五百十九號私立學校令施行細則ヲ遵守シ同年二月眞宗中學條  
例及同年文部省令第三號中學校編制及設備規則第一條乃至第十九條ニ  
基キ相當ノ設備ヲ具ヘ更ニ左ノ數項ニ該當スル者ニ限ル  
一 其地方ニ於ケル本山ノ教學ニ關スル施設上ニ妨ケナキモノ  
二 五學年ヲ通シ生徒總數百五十人以上入學ノ見込アルモノ  
三 授業料等ノ豫メ確定シ雖キ收入金ヲ除キ毎年五千圓以上利子トシ  
テ收入シ得ヘキ基本金ヲ備ヘタルモノ

第三條 私立眞宗中學ノ學長若シクハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スルモノ  
及教員ハ勸學局長ノ認可ヲ經タル者タルヘク且教員全數ノ三分ノ一以  
上ハ專任ニシテ中學ノ教員免許狀ヲ有スルモノ四分ノ一以上ハ學師又  
ハ學師補ノ者タルヘシ

第四條 前條認可ヲ與ヘタル學長若クハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者

若シ不適當ナリト認メタル時ハ勸學局長ハ其認可ヲ取消スコトアルヘ  
シ

第五條 私立眞宗中學ニ於テ學長若クハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ  
變更シ又教職員ヲ任免シタル時ハ其都度勸學局長ヘ開申スヘシ其學長  
若クハ學校代表者變更ノ場合ニハ新任者ノ履歷書ヲ添ヘ認可ヲ受クル  
ヲ要ス

第六條 私立眞宗中學ニ於テ其學則生徒定員校地校舍及校ノ維持法ヲ變  
更セントスル時ハ勸學局長ノ認可ヲ請フヘシ

第七條 私立眞宗中學ニ於ケル教職員ノ俸給旅費其他諸給與ニ關スル規  
則ハ勸學局長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第八條 私立眞宗中學ニ於テハ授業料ヲ徵集スルコトヲ得  
但定額ハ豫メ勸學局長ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 私立眞宗中學ニハ勸學局長ノ定ムル規則ニヨリ表簿ヲ調制シ檢  
閱ニ供スル爲常ニ之ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 勸學局長ハ若シ必要ト認メタル時ハ局員ヲシテ私立眞宗中學ノ

試験ニ立合ハシメ或ハ試験問題及其答案ヲ査閲セシムルコトアルヘシ  
第十一條 私立真宗中學ヲ廢止セントスル時ハ其事由並ニ生徒處分方法  
ヲ具シ勸學局長ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 私立真宗中學ニシテ本規則ニ違背シ又ハ其成績不良ナリト認  
メタル時若ハ四ヶ月以上規定ノ授業ヲナサル時ハ勸學局長ハ將來ニ  
向テ其與ヘタル認可ヲ取消シ又ハ其校ノ閉鎖ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 本規則ノ規定ニ依ラサル學校ハ真宗中學ト稱スルコトヲ得ス

附 則

第十四條 本規則ハ明治三十三年一月四日ヨリ施行ス

○教學部達第二號 明治三十六年八月一日

私立真宗中學職制

第一條 真宗中學ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學長 一人 稟授以上
- 主幹 一人 稟授以上
- 舍監 若干人 稟授又ハ例授

明治三十六年九月二日  
教學部達第二號  
修正ヨリ

書記 若干人 准稟授又ハ例授

教授 若干人 稟授以上

助教授 若干人 准稟授又ハ例授

第二條 學長ハ教學部長ノ指揮ヲ受ケ中學一般ノ事ヲ管理ス其職務ノ要  
領左ノ如シ

- 一 例授以上職員ノ功過進退ハ意見ヲ具シテ上申シ囑託教授及級外職  
員ニ關シテハ之ヲ專行スルコト
- 一 中學條例及中學ニ關スル條規ノ範圍内ニ於テ細則ヲ設クルコト
- 一 中學ニ關スル條規ニ改正ヲ加フルノ必要アリト認ムル時ハ案ヲ具  
シテ上申スルコト
- 一 規程ナキ事項ニ關シテハ重大ノ事ハ上申シ他ハ其責任ヲ以テ決行  
スルコト

第三條 主幹ハ教授庶務及會計ヲ掌理ス

學長事故アル時ハ其職務ヲ代理ス

第四條 舍監ハ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 書記ハ上長ノ指揮ヲ受ク教務庶務及會計ニ從事ス  
第六條 教授助教授ハ所化ノ教育ヲ掌ル

教務上意見アル時ハ主幹ヲ經テ學長ニ申出ツルコトヲ得

○私立真宗京都中學徵兵猶豫ノ件

告示第一號 明治三十二年一月三十一日

真宗京都中學ヲ徵兵令第十三條ニヨリ認定スル旨本月二十九日付ヲ以テ  
文部大臣ヨリ告示セラル

○私立真宗東京中學徵兵猶豫ノ件

○告示第五號 明治三十三年三月二十七日

真宗東京中學ヲ徵兵令第十三條ニ依リ認可ノ旨二月二十七日付ヲ以テ文  
部大臣ヨリ告示セラル

○私立真宗京都中學學則

第一章 總 則

第一條 本學ハ真宗大谷派本山明治三十二年五月四日達令第五號真宗中  
學條例ニ基キ真宗僧侶ニ須要ナル高等普通教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二章 修業年限及學科課程

第二條 本學ノ修業年限ヲ五ケ年トシ其卒業生ニシテ寺院住職タラント  
スル者ノ爲メニ實修科一ケ年ヲ置ク

但官公立中學校以上ノ學校ヲ卒業シ寺院住職タラントスル者ノ爲メ  
ニ實修科二ケ年ヲ置ク

第三條 學科課程及授業時間ハ左表ノ如シ

		修身	宗 乘	餘 乘
每時	週間	一	一	一
一年級	同上	一	一	一
二年級	同上	一	一	一
三年級	同上	一	一	一
四年級	同上	一	一	一
五年級	同上	一	一	一
實修科				
			聖教句 讀真宗要 講祖 釋二同 上三同 上三同 上三同 上二同 上六同	佛教二 要諸 旨宗 三同 上三同 上三同 上三同 上二同 上六同
				性相要 旨一乘要

科學	數學	地理及 天文	歷史	英語	漢文	國語
	四	二	二	六	三	三
	算術	地理本 日理本	日史本	講書取 讀字	講讀	講讀
二	代幾算 術四	地萬 理國	二 上	六 同	三 同	三 同
植物學	代幾算 術四	地萬 理國	二 上	六 同	三 同	三 同
三	代幾算 術四	地文 學	東洋 史三	六 上	三 上	三 上
地質學 動物學 植物學	代幾算 術四		西 史二	六 上	三 上	三 上
四	同同		西 史二	六 上	三 上	三 上
衛生化 生理學	同上		日 本 史	七 上	三 上	三 上
四	同上		佛 史	同 上	三 上	三 上
物理學 化學	同上			同 上	三 上	三 上
六	三				二	二
	概要 教理				演說 法	演說 法

合計 時間	哲學	教 明導	體 操	圖 畫	習 字
三二			三	二	二
			操 兵式體 操 普通體	自 在 畫	楷 行
三			三	一	一
			上	上	草
三			上	上	
			上	上	
三			上	上	
			上	上	
三			上	上	
			上	上	
六	三	五			
	概要 教理	演說 法			

第三章 學年及學期

第四條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ルモノトス  
 第五條 學年ヲ分チテ三學期トス

第六類 學 事

第一學期ハ九月一日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第二學期ハ一月八日ヨリ四月七日ニ至ル

第三學期ハ四月八日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第四章 休業日

第六條 休業日ハ左ノ如シ

日曜日、大祭祝日

宗祖報恩講 十一月二十一日ヨリ同月二十八日ニ至ル

冬期休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

夏期休業 七月十六日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第五章 入學退學及懲戒

第七條 年齡滿十二年以上ニシテ品行方正身體健全ノ者ニ限り毎學年ノ始メニ於テ入學ヲ許ス

但時宜ニヨリ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第八條 第一年級ニ入學スルコトヲ得ルモノハ高等小學校第三年級ノ課程ヲ修了シタルモノトス

但此資格ナキモノハ高等小學校第三年級ノ程度ニ準シ國語作文算術地理歴史ノ五科目ヲ試験シ合格ノ者ニ入學ヲ許ス

第九條 第二年級以上ニ入學セント欲スル者ハ其級在學者ノ履修シタル諸學科ヲ試験シ合格ノ者ニ入學ヲ許ス

第十條 官公立中學校ヨリ轉入學セントスル者ハ其成績ヲ詮考シ宗乘餘乘ノ二學科ヲ試験シ相當級又ハ次級ヘ編入ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 徵兵令第十三條ニヨリ認定ヲ受ケタル私立中學校地方真宗中學及他派中學ヨリ轉入學セントスル者ハ宗乘餘乘國語漢文英語數學六科目ヲ試験シ合格ノ者ニ入學ヲ許ス

第十二條 私立真宗東京中學ヨリ轉入學セントスル者ハ當該學校長ノ證明ニヨリ無試験ニテ相當級ニ編入スルコトアルヘシ

第十三條 入學志願者ハ第一號及第二號書式ニ準シ入學願書及履歷書各一通ニ手数料ヲ添ヘテ毎年七月三十一日迄ニ願出ツヘシ



入學願 (用紙美濃野紙)

右者今般御學第何年級へ(試験ヲ經テ)入學致爲度候ニ付御許可  
 被成下度別紙履歷書及手数料金(五拾錢)相添へ此段願上候也  
 年月日 右父兄又ハ後見人 氏 名  
 私立眞宗京都中學長氏名殿 現在住所

式書號壹第

號貳第

履歷書 (用紙美濃野紙)

氏名 何某(振リ假名ヲ附スヘシ)  
 誕生 明治何年何月何日  
 原籍 何府縣何國何郡市何町村何番地何某何男(弟又ハ戶  
 主等)  
 所屬寺 何府縣何國何郡市何町村何宗何派何寺何衆徒(未得  
 度ナレハ徒弟)  
 得度 何年何月何日受式(僧侶ノ子弟ナラサレハ以  
 上二項ヲ除キ職業ヲ記スヘシ)

式書

學業 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ入り何級マテ終  
 了又ハ卒業  
 何年何月ヨリ何年何月マテ何某ニ就キ何學修業用書  
 何々等  
 賞罰 何年何月何日何所ニ於テ何々ニヨリ賞又ハ罰ヲ受ク  
 右之通相違無之候也  
 年月日 右本人 氏 名

第十四條 小學校及其他ノ學校ヨリ入學セントスルモノハ修了證書若ク  
 ハ當該學校長ノ證明書ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第十五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第參號書式ニ準シ保證人連署ノ在學  
 誓書ヲ差出スヘシ

在學誓書 (用紙ハ本學ヨリ申受クヘシ)  
 私儀今般御學ニ入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守候ハ  
 勿論撰リニ半途退學等致間敷候仍テ誓書如件  
 原籍 何府縣何國何郡市何町村何番地何某何男(弟又ハ戶  
 主)  
 所屬寺 何府縣何國何郡市何町村何宗何派何寺衆徒(未得度  
 ナレハ徒弟)

第

第六類學事

參 號 書 式

年 月 日

(僧侶ナラサレハ其職業)

氏

名<sup>カ+</sup>

生年月日

前文氏名在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私共負擔シ御學ニ對シ義務  
相缺キ候様ノ專決シテ致問敷候尙平素御學御趣意ノアル所ヲ協  
登シ共ニ督勵可致候仍テ保證如件  
住所所屬寺(僧侶ナラサレハ其職業)

父兄又ハ後見人

保證人

名<sup>㊦</sup>

生年月日

住 所 職 業

保證人

氏

名<sup>㊦</sup>

生年月日

眞宗京都中學長氏名殿

第十六條 保證人二名ノ内一名ハ本人ノ父兄親戚又ハ後見人ヲ以テシ一  
名ハ丁年以上ノ男子ニシテ本學ヲ距ル二里以内ノ地ニ住居シ一家計ヲ  
立テ本學ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル

第十七條 保證人轉居改印等ノ事故アルトキハ直チニ届出ツヘク疾病死  
去等ノ爲メ其義務ヲ盡スコト能ハサル場合ニハ直チニ之ヲ補缺シ更ニ

在學誓書ヲ差出スヘシ

第十八條 疾病其他止ムチ得サル事故ニヨリ二ヶ月以上修學スルコト能  
ハサルトキハ保證人二名連署ヲ以テ願出テ許可チ得テ其學年休學スル  
コトヲ得

但休學中其事故止ム時ハ願ニ依リ出席ヲ許スコトアルヘシ

第十九條 休學ノ許可チ得タル者ハ次學年ノ始メヨリ其原級ニ入り修學  
スヘキモノトス

第二十條 疾病其他止ムチ得サル事故ニヨリ退學セントスル時ハ其事由  
ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ學長ノ指揮ヲ待ツヘキモノトス

第二十一條 生徒ニシテ規則及命令ニ違反スルモノ又ハ校内ノ風紀ヲ紊  
ルモノハ其輕重ニヨリ譴責停學若クハ退學ニ處スヘシ

第二十二條 左記各項ノ一ニ當ルモノハ除名ス

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一ヶ年以上缺席シタル者

四 正當ノ理由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタルモノ

第二十三條 一旦退學セシモノ一ケ年以内ニ於テ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上其原級ニ編入ヲ許可スルコトアルヘシ

第六章 試験及進級卒業

第二十四條 生徒ノ及落ハ學業ノ成績行狀ノ良否及出席ノ多少ヲ鑑ミテ之ヲ定ムルモノトス

第二十五條 行狀ノ良否ハ毎學年ノ終リニ於テ舍監及教授ノ品評ニ基キ所謂ノ有無出席ノ多少等ヲ參酌シテ一等二等三等四等及五等ニ分チ之ヲ定ム

第二十六條 學業ノ成績ハ點數ヲ以テ評決スルモノニシテ一百ヲ最高點トシ六十以上ヲ合格點トス

第二十七條 各科目ノ日課及臨時試験ノ成績ト出席ノ多少トヲ參酌シテ定メタル平常點ト學期試験點トヲ合シテ二除シタルモノヲ學期評點トシ三學期評點ニ學年試験點ヲ加ヘテ四除シタルモノヲ學年評點トス

第二十八條 試験ヲ分ツテ臨時學期及學年ノ三種トス

臨時試験ハ一學期ニ一回以上教員ノ見込ヲ以テ隨時其當日迄ニ履修シタル科目ニツキ行フモノトス

學期試験ハ學期ノ終リニ於テ豫メ日時ヲ定メテ其學期中ニ履修シタル科目ニ就キ行フモノトス

但第三學期試験ハ臨時試験ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

學年試験ハ學年ノ終ニ於テ豫メ日時ヲ定メテ其學年中履修シタル諸科目全部ニ就キ行フモノトス

第二十九條 學年末ニ於テ各科目ノ學年評點合格ノモノハ進級セシメ其他ノ者ハ原級ニ止マラシム

但學年評點ノ諸科目平均六十點以上ニシテ左ノ二項ノ一ニ該當スルトキハ特ニ進級スルコトヲ許ス

第一項 行狀品評第一等ニシテ不合格ノ科目四十點以上二科目五十點以上一科以内ナルトキ

五十點以上五科目以内ナルトキ

第二項 行狀品評第二三四等ニシテ不合格ノ科目四十點以上一科目

五十點以上二科目以内ナルトキ  
 五十點以上四科目以内ナルトキ  
 第三十條 第五年級ニ於テ進級ノ格ニ合フ者ニハ第四號書式ノ卒業證書  
 ナ授與シ實修科ニ於テ進級ノ格ニ合フ者ニハ第五號書式ノ卒業證書ヲ  
 授與ス

式書號四第

割印	番號	校印	卒業證書
			氏名
右ハ本學五ヶ年ノ學科ヲ修メ茲ニ 其業ヲ卒ヘタリ依テ之ヲ證ス 年 月 日			學長氏名團

式書號五第

割印	番號	校印	卒業證書
			氏名
右ハ本學實修科ノ學科ヲ修メ茲ニ 其業ヲ卒ヘタリ依テ之ヲ證ス 年 月 日			學長氏名團

第三十一條 學期試験ニ缺席シタル者ハ事故ノ何タルナ間ハス追試験ヲ  
 受ケルコトヲ許サス  
 但教員ノ見込ニヨリ平常點ノ二分ノ一以内ヲ以テ學期試験點トナス  
 コトヲ得  
 第三十二條 學年試験ニ於テ一科目タリトモ缺席シタル者ハ原級ニ止ラ

シム

但病氣其他止ムヲ得サル事故アリタル確證アリ且ツ既得ノ評點各科六十點以上ナルトキハ願ニ依リ次學年ノ始ニ於テ追試驗ヲ許スコトアルヘシ

第七章 授業料及入學手数料

第三十三條 派内ノ僧侶生徒ハ授業料ヲ徵集セス其他ノ者ハ一學年金拾圓ヲ納メシム

但事宜ニヨリ免除スルコトアルヘシ

第三十四條 入學手数料ハ試験ヲ要セサルモノハ金五拾錢試験ヲ經テ入學セントスルモノハ金壹圓ヲ入學願書ト共ニ納ムヘキモノトス

第八章 寄宿舎

第三十五條 寄宿舎ハ舎監之ヲ監督シ教室ノ訓育ト相俟テ一派年少子弟ノ高潔ナル氣風ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第三十六條 寄宿舎ハ學年ノ始ニ之ヲ開キ夏期休業中之ヲ閉ツ時宜ニヨリテハ冬期休業中閉舎スルコトアルヘシ

第三十七條 生徒ノ入舎ハ學年ノ始メ若クハ學期ノ始ニ之ヲ許可ス

第三十八條 在舎生徒ハ學年中猥リニ退舎スルヲ得ス若シ己ムヲ得サル事故アルトキハ學期ノ終ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十九條 在學生徒數ニシテ寄宿舎收容人員超過スルトキハ上級生徒中ニテ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第四十條 前條規定以外ニ於テ若シ必要ト認ムルトキハ級ノ上下ニ拘ハラズ入舎又ハ退舎ヲ命スルコトアルヘシ

第四十一條 晨昏勤行、消燈、點呼、食事、入浴等舎内ノ行事時間割ハ授業時間ノ長短ニ從ヒ適宜ニ舎監之ヲ指定ス

第四十二條 疾病外宿歸省等時間割規定以外ノ出來事ニ關シテハ總テ舎監ノ指揮ヲ缺ツヘシ

第四十三條 舎内管理上ノ便宜ヲ圖リ且ツ舎生各自ノ自治ヲ成サシムル爲メ各室ニ室長ヲ置キ上級生徒ニ之ヲ命ス

第四十四條 室長ハ舎監ヲ佐ケ舎内全般ノ風紀秩序ヲ正スヘキモノトス  
第四十五條 各舎内ニ四名ノ週番長ヲ置キ各室長ヲシテ順次ニ其任ニ當

り舍内ノ行事ヲ處理セシム

第四十六條 晨昏勤行ハ最モ嚴重ニ之ヲ行フヘシ

第四十七條 各室長中順次ニ當直ヲ定メ佛前奉仕及勤行ノ調整ヲナサシ

第四十八條 舍監ノ許可ナクシテ勤行ニ缺勤スルヲ得ス

第四十九條 舍生學資金ハ總テ本學々資保管者ニ委託シ舍監ノ許可ナク

シテ任意之ヲ取出スヲ得ス

第五十條 舍内ノ禁條左ノ如シ

- 一 本學生徒ノ品位ヲ汚ス如キ言語舉動スヘカラス
- 二 猥リニ他ノ居室ニ出入シ他人ノ自修ヲ妨クヘカラス
- 三 殿ニ金錢物品ノ貸借ヲ禁ス
- 四 恣ニ燈火ヲ移轉スヘカラス
- 五 居室及校具ヲ汚損スヘカラス
- 六 私ニ校僕ヲ使役スヘカラス
- 七 私ニ賄方ニ對シ食事ニ關スル事ヲ命スヘカラス

第五十一條 舍生ニシテ舍内ノ風紀秩序ヲ紊ス行爲アルトキハ舍監ハ之ヲ處罰スヘシ

第五十二條 前各條以外ニ於テ必要ト認ムルトキハ舍監ハ隨時口達若クハ揭示ヲ以テ之ヲ注意スヘシ

第九章 職員

第五十三條 本學ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學長 一人
- 主幹 一人
- 舍監 五人以内
- 教授 三十五人以内
- 書記 五人以内

第五十四條 學長ハ本學ヲ總理シ本學ヲ代表ス

第五十五條 主幹ハ學長ヲ補佐シ教務庶務會計ヲ管理シ學長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五十六條 舍監ハ本學ノ風紀ヲ董督シ特ニ寄宿舍ニ關スル一切ノ事務

ヲ管理ス

第五十七條 教授ハ生徒ノ教育ヲ擔任ス

第五十八條 書記ハ教務庶務會計ヲ分擔處理ス

明治三十三年一月二十九日 文部省告示第十四號ヲ以テ徵兵令第十三條ニ依リ認定セラル

明治三十六年六月十六日 文部省告示第百十九號ヲ以テ明治三十三年一月二十九日以後本學ノ卒業者ハ明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得ル旨指定セラル

○私立眞宗中學所化制服ノ件

告達第二十號 明治二十七年八月二十八日

一 麻小衣 一 淺黃色威儀麻墨袷袢

但安居所化ヲ除ク

○實修科所化制服ノ件

告達第二十三號 明治三十七年十一月一日

三十二年  
告正  
六改

明治二十七年告達第十九號中學實修科所化ニ限り佛前ヲ除ク外左ノ輪袷袢ヲ制服中ニ加フ

一 鶯茶地葉牡丹 色紋輪袷袢

○私立眞宗東京中學校舍移轉ノ件

數學部告示第二號 明治三十六年十月三十日

私立眞宗東京中學來ル十一月一日ヨリ東京府北豐島郡葉鴨村大字葉鴨字

宮仲二千五百四十三番地新築校舎ニ移轉ス

○私立眞宗京都中學所化冥加金ノ件

部達第二號 明治三十七年七月二十九日

眞宗京都中學

寺務御改正經費節減ノ都合ニヨリ本年九月以後其學所化一同冥加トシテ

毎月各名金壹圓宛納附セシムヘシ

○私立眞宗東京中學併攝ノ件

告達第七號 明治三十七年七月二十七日

明治三十七年九月一日ヨリ同三十九年八月三十一日マテ眞宗東京中學ヲ

閉鎖シ眞宗京都中學ニ併攝ス

○條例第三號 明治三十八年十一月二十五日

私立眞宗東京中學ノ閉鎖ヲ明治四十年八月三十一日マテ繼續ス

第七款 講習會規則

○告達第三號 明治三十五年二月一日

講習會規則

第一條 講習會ハ地方僧侶ノ智識ヲ増進シ德義ヲ涵養センカ爲メ之ヲ開設スルモノトス

第二條 講習會ハ宗乘並ニ餘乘其他宗門ニ必要ナル學科ニ就キ講話ヲ開キ併セテ教導上ノ練習ヲ爲スモノトス

第三條 講習會ハ地方ノ情況ニ應シ便宜區劃ヲ定メ之ヲ開設スルモノトス

第四條 講習會ノ開期ハ二週間以上トス

第五條 講習會ヲ開設セントスル時ハ其區劃内ノ組長、教務委員ノ連署ヲ以テ當該教務所ヲ經テ教學部長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 講習會ノ講者ハ申請ニ依リ本山之ヲ派遣ス

第七條 講習會ハ其開會期日及講本等ヲ教學部長ニ届出ヘシ

第八條 講習會出席者ノ成績及開期中ノ記事ハ教學部長ニ申請スヘシ

第九條 講習會ニ出席シ精勤シテ成績優良ナル者ハ詮議ノ上本山之ヲ褒賞ス

第十條 講習會ニ關スル費用ハ總テ其地方ノ負擔トス

第十一條 講習會ハ其聽講者ノ取締其他必要ナル事項ニ關シ本規則ノ範圍内ニ於テ規程ヲ設ケ教學部長ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

第十二條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十三條 從來發布ノ講習會ニ關スル達令及認可ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第八款 圖書出版

○本派僧侶ノ佛典ニ關スル著述出版ノ件

甲第二十二號 明治十一年三月十七日

第六類 學 事



本派僧侶著述又ハ編輯之圖書宗乘ハ勿論余乘ト雖モ總テ佛典ニ關スル分  
ハ原稿相添差支有無本山へ伺出之上手續ヲ經テ出版候様可致此段相違候  
事

○講者ノ宗義ニ關スル書籍出版ノ件  
自今講者ノ著述ニシテ宗義ニ關スル書籍ヲ發刊セントスルトキハ必ス教  
學部ノ檢閲ヲ經ヘシ

明治三十年六月十二日

第參章 雜 令

○條例第三號 明治三十四年六月二十一日

地方教學費補助法

第一條 地方教學費補助金ハ當該教務所寺務出張所部下ニ於ケル末寺子  
弟ニシテ學費ニ乏シキ者ヲ補助シ若クハ布教勸學上必要ナル施設ヲ爲  
スニ當リ其經費ニ充ツル外他ニ使用スルコトヲ得ス

第二條 補助金ノ標準ハ左ノ例ニ依ルモノトス

第一項 補助金ハ各教務所寺務出張所部下ニ於テ毎年進納スル本廟御  
相續志金ノ百分ノ五及六條生命保險株式會社毎年寄納金ノ百分ノ五  
ヲ當該教務所寺務出張所部下ニ附ス

第二項 本廟御相續志ハ當該教務所寺務出張所部下ニ於ケル進納金高  
ニ照準シ六條生命保險株式會社寄納金ハ當該教務所寺務出張所部下  
ニ於ケル被保險契約金高ニ照準シテ割附ス

第三條 地方教學費補助金ノ保管及使用方法ニ關シテハ當該教務所管事寺  
務出張所長及賛衆組長教務委員協議ノ上方法規則ヲ制定シ教學部長會  
計部長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第四條 本條例施行ニ際シ必要ナル細則ハ教學部長別ニ之ヲ定ム  
附 則

第五條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○教學部達第二號 明治三十四年六月二十一日  
地方教學費補助法施行細則

第一條 本廟御相續志ニ屬スル補助金ハ會計年度（毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル）内ニ各教務所寺務出張所部下ヨリ進納セシ其納付額ニ基キ之ヲ翌年二月以後ニ於テ會計部ヨリ教務所寺務出張所ニ交付ス

第二條 六條生命保險株式會社ノ寄納ニ屬スル補助金ハ各教務所寺務出張所部下ニ於ケル保險契約金高（毎年十二月末日現在ノ統計ニ依リ會社ニ於テ調製スル各教務所寺務出張所別保險契約金表）ニ照準シ之ヲ割付シ翌年二月以後ニ於テ會計部ヨリ教務所寺務出張所ニ交付ス

第三條 本法第三條ニ依リ補助金ノ使用方法ヲ定ムルトキハ子弟學資、教學經費ノ種類及補助額豫算ヲ同時ニ定ムヘシ補助金使用ノ決算ハ教務所管事寺務出張所長ヨリ毎年一月七月ノ二回教學部長ニ報告シ認定ヲ受ケヘシ

第四條 本法第一條ノ補助ヲ受ケヘキ末寺子弟トハ左ニ掲ケルモノヲ指定ス  
一 眞宗大學、眞宗中學ニ在學中ノ者

一 官公立又ハ私立ニシテ中學程度以上ノ學校ニ在學中ノ者

第五條 本法第一條ノ布教勸學ノ施設ニ對シ補助ヲ受ケヘキモノハ本山ノ認可ヲ經タル事業ニ限ル

第六條 學資ノ補助ヲ請ケントスル者ハ事情ヲ具シ（住職請願者ナルトキハ法類）門徒（又ハ信徒）總代、組長（組長ヲ置カサル地方ニアリテハ組長ノ事務ヲ取扱フ者）連署ヲ以テ教務所管事又ハ寺務出張所長ニ出願スヘシ

前項ノ願書ニハ本人在學校長又ハ管理者ノ證明書即品行方正及將來成業ノ見込アル證書ヲ添付スヘシ

第七條 本法第一條ノ布教勸學ノ施設事業ニ對シ經費ノ補助ヲ請ケントスルモノハ其設立發起人又ハ管理者ヨリ教務所管事又ハ寺務出張所長ニ出願スヘシ

第八條 本法施行ニ付テ地方ニ於ケル事務ハ教務所寺務出張所ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第九條 本法施行ニ付通信ニ關スル雜費ヲ除ク外旅費日當等ハ地方協議

費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第七類、末寺、僧侶、附坊守門徒

附、法寶物、收骨

第一章 末寺

第一款 別院

○輪番出仕席差許ノ件

堂僧後班ニ諸管刹輪番出仕席差許候條此段相違候也

但上京ノ節當所へ届出仕可相伺候事

明治七年三月九日

○自庵管刹夏御文拜讀ノ件

總末寺門徒申

管刹ヲ除ク外從前自庵管刹ト稱シタル各寺エ祖師忌彼岸會夏御文拜讀等ノ爲使僧差向候處自今差止候條此段爲心得相違候事

明治八年十二月二十五日

○輪番ノ職務ノ件

第七類 末寺

第九號 明治九年三月五日

輪番之儀ハ所在管刹寺務式務兼勤之職ト可相心得此段相違候事

○管刹ヲ別院ト改稱ノ件

第百二號 明治九年十月一日

總末寺中

管刹之稱別院ト被改候條此段相違候事

○餘間以下ノモノ輪番席次給俸ノ件

式務課

諸別院輪番ノ儀堂班餘間以上之者ヲ除ク外自今總テ堂僧兼務爲致座次給俸等左之通相定候條此段相違候事

明治十一年八月十三日

一、堂僧現在之者輪番兼務申付ラル節ハ座次毎ノ如シ

一、元堂僧ニシテ當時休役或ハ事故アリテ免役之者再勤並輪番兼務申付ラル節ハ座次堂僧助勤ノ首座タルヘシ

一、脇間之者新ニ輪番申付ラル節ハ輪番兼堂僧助勤トシ座次堂僧助勤

ノ巡座タルヘシ

但輪番兼務中堂僧之給俸不付與候事

○釜山別院ト改稱ノ件

○報告 明治十一年十二月十一日

朝鮮國大願寺出張所自今釜山別院ト被稱

○大和國新家別院復稱ノ件

大和國新家別院ハ豫テ大谷別院支院ト被定置候處今般更ニ新家別院ト改定ナリタリ

明治十二年六月

庶務課

○輪番役務程則

今般各別院輪番役務程則並取扱心得別冊之通相定候條此段相違候事

明治十一年二月十六日

別冊

別院輪番役務程則

第七類 末寺

別院ハ本山法主兼任職ノ所ニシテ輪番ヲ置キ事務方代理セシムルモノナ  
レハ本院及支院ノ事務細大トナク之ヲ例規ニ照シテ管理スヘキニ付其開  
申シテ指揮ヲ乞フヘキモノト適宜ニ處分スヘキモノト其節目左ノ如シ

- 一、臨時法要執行之事
  - 一、年中定會之法要式ヲ變換スル事
  - 一、列座及勘定方進退之事
  - 一、本堂及庫裏等ヲ貸渡ス事
  - 一、諸例規ヲ變換スル事
  - 一、建築管繕之事
  - 一、新ニ負債ヲ起ス事
  - 一、例規ナキ經費ヲ支給スヘキ事
  - 一、非常要具ヲ買入ル事
  - 一、所屬說教場ヲ新ニ開設スル事
- 以上十條ハ寺務所ニ開申シ指揮ヲ乞フヘシ  
但寺務出張所有之地ハ出張所ヘ開申スヘシ

- 一、本院及支院並所屬說教場所所有之法寶物並什器等ヲ保存スル事
  - 一、年中定會之法要ヲ執行スル事
  - 一、檀家之法要ニ參勤スル事
  - 一、支院留守居並役僧進退之事
  - 一、世話方及奴僕進退之事
  - 一、一時融通之爲五拾圓以下ノ金圓ヲ借入ル事
  - 一、定例アル經費ヲ支給スル事
  - 一、列座以下之者ヲ督責スル事
  - 一、轉檀ヲ聽許スル事
  - 一、尋常需用之物器等買入ル事
- 以上十條ハ適宜ニ之ヲ處分シ毎年一月七月十五日限り明細寺務  
所又ハ出張所ヘ届出ヘシ

事務取扱心得

- 一、凡ソ品行端肅ニシテ職務ヲ勉勵シ衆ノ模範トナルヲ期シ毫モ不正  
ノ所行ナキヲ要ス

- 一、歴代法主殿御年回等臨時法要ヲ執行セントセバ日限並法要式等ノ勅例書ヲ相添伺出ヘシ
- 一、年中定旨ノ法要式其他諸例規中變換セサルヲ得サルコトアラハ差支ノ事故詳細相認メ伺出ヘシ
- 一、列座及勘定方等ノ勤惰ヲ監識シ若シ役務上ニ於テ多少ノ妨害ヲ醸ス等ノ失體アラハ懇切説諭ヲ加ヘ自然聽用セサルハ其旨具陳スヘシ
- 一、本堂及庫裡等ヲ地方廳等ヨリ借受度旨依頼スルコトアラハ其趣伺出ヘシ
- 一、本院支院ノ檀家轉宗改派等申出ル節ハ篤ト説諭ヲ加ヘ自然聽用セサルハ其旨届出ヘシ
- 一、他宗他派ノ檀家別院等ニ附屬致シ度旨申出ル節ハ篤ト取調其旨届出ヘシ
- 一、不得止營繕ハ經費見積書並圖面等相添詳細伺出ヘシ
- 一、不得止事故ニ付金圓借入レサルヲ得サル時ハ先ツ返済ノ見込ヲ立

テ五十圓以上ハ伺之上五拾圓以下ハ勘定方等へ協議之上借入ソノ都度届出ヘシ

但ル拾圓以下ト雖トモ五ケ月以内返償スヘカラサル分ハ必ス前以テ伺出ヘシ

一、器械等買入ハ代金貳拾圓以上ハ伺ヲ經貳拾圓以下ハ勘定方へ協議之上買入届出ヘシ

但寄附人アル向ハ其都度届出ヘシ

一、新ニ説教場ヲ設置セントセバ其事故並地所及永續ノ方法等詳細相認メ伺出ヘシ

一、本院支院等ノ法寶物並什器類ヲ簿記監護シ若シ紛失等ノコトアラハ事開申スヘシ

一、年中定旨ノ法要定日説教等懇勸ニ之ヲ執行シ例規ニ違反スヘカラス

一、猥リニ末寺等へ參勤スヘカラス

一、日用ノ米穀其他筆紙墨等濫用無之様精々注意スヘシ

一、本院及支院ノ出納ハ勘定方へ擔任セシメ粗漏不正無之樣精々注意スヘキハ勿論萬一出納上ニ不都合アル時ハ輪番ノ責タルヘシ

一、支院及所屬説教場ハ時々巡回シ補テ體裁ヲ整ハシムヘシ

一、地方末寺内外陣列座以上ノ者別院法要ニ參勤之節ハ之ヲ詳記シ届出ヘシ

一、列座及勘定方等ニ至ル迄録名簿ヲ作り毎日退出共鈐印セシメ勤怠ヲ取調フヘシ

一、年中ノ事務細大トナク之ヲ帳簿ニ記シ他日ノ參照ニ供スヘシ

○別院ニ於テ尊儀安置ノ件

丙第二號 明治十三年九月二十八日

各別院

去ル明治八年六月配紙第二百三十二丁従前諸管刹ニ於テ本山ノ例ニ倣ヒ尊儀安置ノ向ハ自今差止候旨相達置候處右ハ取消候條此段相達候事

○静岡別院崇敬部下ノ件 駿河國静岡別院之儀自今駿河遠江、伊豆三ヶ國崇敬別院ト被定タリ

○輪番其管下ニ應招説教ヲナス場合添書ノ件

丙第十一號 明治十四年十二月五日

組長中

去ル十年九月丙第五號同十一年十一月丙第九號ヲ以テ他管内寺院へ應請説教ノ節該組長ノ添書ヲ要スヘキ旨相達置候處別院輪番ノ儀ハ其別院舊配下へ應請説教候共添書ニ不及候條爲心得此段相達候事

丙第十二號 明治十四年十二月五日

各別院輪番中

別紙丙第十一號之通組長中へ相達置候條爲心得此段相達候事

○輪番待遇ノ件

○告達第三十三號 明治三十年七月一日

自今各別院輪番ノ待遇ハ准稟授四級以上トス

○輪番印鑑ノ件

○所達第二十號 明治三十一年六月十日

各別院輪番ハ其役印ヲ調製シ公務ニ使用スヘシ

輪番印鑑

何々別	院輪番	姓名印
-----	-----	-----

親授ハ方七分

稟授ハ方六分

○別院列座役ノ件

○所達第七號 明治三十二年四月十日

各別院寺務方式務方及列座ヲ廢シ更ニ列座役並列座見習ヲ置キ從前ノ事務ヲ兼掌セシム其待遇左ノ如シ

一、列座役 准列授一級乃至四級

二、列座役見習 級外一等乃至五等

○赤羽別院ノ件

○三十九號 明治二十年十二月九日

赤羽別院儀自今別格別院ト被定候條此段相違候事

○茨木別院ノ件

攝津國茨木別院之儀自今同國嶋上嶋下兩郡崇敬別院ト被定タリ

○三河別院ノ件

○告達第八號 明治二十三年六月九日

峯山別院ヲ三河國額田郡岡崎町ニ移シ三河別院ト更稱シ三河國一般崇敬ノ別院ト定ム

○告達別第二號 明治二十四年三月十八日

其場自今三河別院所屬ト定ム

○琉球別院ノ件

○告達第十二號 明治二十二年十月二十三日

琉球說教場ヲ自今琉球別院ト改稱ス

○四ヶ市別院ノ件

暮戸說教場  
西尾說教場  
舉母說教場  
富好說教場



○告示第三號 明治三十九年一月二十日

今般豐前國宇佐郡四日市町眞勝寺四日市別院ヲ別格別院トシ豐前豐後筑前筑後肥前肥後ノ六ヶ國ヲ崇敬部下ト定メラル

○橫濱別院ノ件

○告示第十二號 明治四十年六月二十四日

今般淺草別院橫濱支院ヲ別院ニ引直シ橫濱別院ト稱シ橫濱市ヲ崇敬部下ト定メラル

○京城別院ノ件

○告示第五號 明治二十八年二月七日

在朝鮮國釜山別院京城支院ヲ京城別院ト改メ釜山別院仁川支院ヲ京城別院仁川支院ト相定ム

○仁川別院ノ件

告示第三號 明治三十三年二月二十六日

京城別院仁川支院ヲ仁川別院ト改稱セラレ

○元山別院ノ件

告示第十九號 明治三十四年四月二十六日

釜山別院元山支院ヲ元山別院ト改稱セラレ

○木浦別院ノ件

○告示第三十號 明治四十年十二月二十四日

韓國釜山別院木浦支院ヲ別院ニ引直シ韓國木浦別院ト稱セラレ

別院表

大谷 別院	京都市下京區圓山町
岡崎 別院	同 市上京區岡崎町
山科 別院	京都府宇治郡竹ヶ鼻村
伏見 別院	同 府紀伊郡伏見町
大谷 別院	大和國葛下郡陵西村
新家 別院	同 國廣瀨郡馬見村
八尾 別院	河內國若江郡八尾村
堺 別院	和泉國堺市櫛屋町
難波 別院	大阪市東區北久太郎町
別格	大信寺

天滿 別院	同 市北區岩井町
茨木 別院	滿昭寺 攝津國島下郡茨木村
桑名 別院	別格 水統寺 伊勢國桑名、寺町
名古屋 別院	尾張國名古屋市下茶屋町
三河 別院	三河國額田郡岡崎町
豐橋 別院	同 國渥美郡豐橋町
赤羽 別院	同 國幡豆郡榮生村
靜岡 別院	同 國靜岡市屋形町
甲府 別院	駿河國靜岡市屋形町
淺草 別院	甲斐國甲府市稻門町
大津 別院	東京市淺草區松清町
長濱 別院	近江國滋賀郡大津町
五村 別院	同 國坂田郡長濱町
赤野井 別院	同 國東淺井郡虎姬村
岐阜 別院	同 國野洲郡玉津村
	美濃國岐阜市小熊町

大垣 別院	別格 開闢寺	同 國安八郡大垣町
竹々鼻 別院		同 國羽栗郡竹々鼻町
笠松 別院		同 國同 郡笠松町
高須 別院		同 國下石津郡高須町
高山 別院	別格 照蓮寺	飛彈國大野郡高山町
福井 別院	別格 本瑞寺	越前國福井市乾中町
吉崎 別院		同 國坂井郡吉崎村
金澤 別院		加賀國金澤市橫安江町
井波 別院	別格 瑞泉寺	越中國礪波郡井波町
城端 別院	別格 善徳寺	同 國同 郡城端町
富山 別院		同 國富山市總曲輪
三條 別院		越後國南蒲原郡三條町
高田 別院		同 國中頸城郡高田町
新井 別院		同 國同 郡大崎町
笠原 別院	別格 本誓寺	同 國同 郡高田町

姫路 別院	別格	本徳寺	播磨國姫路市船場町
赤穂 別院			同國赤穂郡赤穂町
廣島 別院			安藝國廣島市大手町
四日市 別院			豐前國宇佐郡四日市町
鹿兒嶋 別院			薩摩國鹿兒嶋市新町
函館 別院	別格	淨玄寺	渡島國函館區元町
札幌 別院			石狩國札幌區山鼻
江差 別院		願正寺	渡島國九艘川町
上海 別院			清國上海
天津 別院			清國天津
釜山 別院			韓國釜山港
京城 別院			韓國京城、南山町
仁川 別院			韓國仁川港寺町
元山 別院			韓國元山港
木浦 別院			韓國木浦港

巳 上

第二款 一般末寺

○甲第七十三號 明治十年十一月二十日

總末寺 中

今般左記之通末寺一般へ免計相成候條此段相達候事

- 一 後門口
- 一 内陣拭板
- 一 四本柱
- 一 前卓五具足
- 一 金供筒赤紙立須彌盛彩色華束

○派内轉檀ニ對スル心得ノ件

甲第四拾五號 明治十二年八月二十三日

總末寺 中

宗派改轉之儀ニ付昨十一年四月達書甲第二十七號並本年二月達書甲第十號ヲ以テ諭達致置候處中ニハ心得違之者有之勅モスレハ派内ノ和合ヲ破リ宗門ノ體面ヲ汚シ甚以不都合之趣相聞へ候ニ付今般別紙之通内務省へ

第七類 末 寺

出願御聞置相成候條自今派内ニ於テ住職不歸依等ノ廉ヲ以テ甲寺ノ檀家乙寺ヘ轉檀申出候節ハ其旨乙寺ヨリ甲寺ヘ照會シ甲乙寺住職ヨリ直管ハ寺務所、出張所部下ハ同所ヘ伺出何分ノ指揮ヲ受候様川致此段相達候事別紙

派内甲乙轉檀之儀ニ付願

昨十一年御省戊第三號ヲ以御達利成乙第二十號府縣ヘ御達之儀ハ全ク人民ヲシテ信教ノ自由ヲ得セシムルノ御趣意ニ出テ候處近來同派内ニ於テ浮游輕躁之徒漫リニ轉檀ヲ乞モノ不少中ニハ本人歸依之實否ヲ問ハス容易ニ之ヲ自檀ニ加フルノミナラズ動モスレハ右御達ヲ口實トシ派内甲乙寺相互ニ巧辨詭譎以テ他檀ヲ勸誘シ候者往々有之自然甲寺ノ住職不歸依等ノ廉ヲ以テ乙寺ヘ轉檀申置候共乙寺ニ於テ容易ニ受理スル時ハ忽チ派内ノ和合ヲ破リ末派ノ苦情ヲ醸シ不都合不少候ニ付先般來處々末寺僧侶ヘ諭達致置候得共各地方ニ於テ繼續檀家去就ノ紛議ヲ起シ到底取締方ニ差支候條自今派内ニ於テ住職不歸依等ノ議ヲ以テ甲寺ノ檀家乙寺ヘ轉檀申出候節ハ甲乙寺住職ヨリ本山或ハ寺務出張所ヘ爲申立事實取調之上何

分ノ指圖ニ及候様仕度候條御聞置被成ト度此段相願候也

眞宗東派管長

明治十二年七月十日

大教正 大谷 光勝

内務卿伊藤博文殿

書面之趣聞置候事

明治十二年八月四日

内務卿伊藤博文閣

○新寺創建出願ノ件

甲第三十二號 明治十四年六月三十日

總末寺 中

新寺創建ノ儀ハ寺院明細帳取調ノ際右出願許可相成候處動モスレハ檀家ノ去就ヲ勸誘シ隨テ派内ノ和合ニハ相關シ不都合不少候條自今新布教地又ハ三里以内ニ本派末寺並說教場無之地方ニ限り事情篤ト取調法類等熟議ノ上新寺出願可致此段相達候事  
○寺院附屬物使用心得ノ件

甲第三十一號 明治十五年六月三十日

近來寺院ノ庫裏書院等ヲ宗用ニ非サル演說席等ニ漫ニ貸渡候向モ有之趣相聞候右ハ明治十二年甲第十五號諭達ノ旨ヲ體シ自今右等ノ儀無之様可相心此段相達候事

○五ヶ寺稱號復舊ノ件

甲第四十一號 十五年八月二十三日

去壬申十一月(配紙第十六葉)五ヶ寺ノ稱號廢止ノ儀相示置候處今般右五ヶ寺ノ稱號ヲ復シ身分取扱等想テ從前ノ通被定候條爲心得此段相達候事

○末寺燒失届出ノ件

○從來末寺燒失ノ際届方ノ儀等閑ニ相成時日經過ノ末組長或ハ觀察等ヨリ申出候モ該住職ヨリハ無届ノ向々有之不都合ニ候條今後堂宇並法寶物類烏有二歸シ候分詳細書相添檀家總代連署ノ上組長ノ奥印ヲ要シ燒失後五日間ニ住職ヨリ可届出此旨報告候也

第三款 堂衆地並道場

○一藪二藪復舊ノ件

今般堂僧一藪 藪之稱復舊候條此段相達候事

但役務之儀ハ都テ改正以後從來之通相心得サスヘク候事

明治十一年二月十日

○堂衆ト改稱ノ件

甲第九號 明治十六年十一月二十六日

總 末 寺 中

堂僧ヲ堂衆ト改稱ス

右稟命告達候事

○告達第二十七號 明治二十年十二月三日

京 都 末 寺 中

京都飛擔地ニシテ從來堂衆勤務ノ寺踏アル者ヲ自今堂衆地ト定メ左ノ條例ヲ設ク

堂衆地條例

第一條 堂衆地ハ舊來ノ緣故モ有之且本廟所任ノ職務ヲ奉スル者ナレハ

第七類 末 寺

特ニ品位ヲ慎ミ勤勉ノ志ヲ勵ムヘシ

第二條 堂衆タル者學業ヲ勵ムヘキハ勿論常ニ聲明拜讀其他說教法談等練習ヲ怠ルヘカラス

第三條 堂衆地ハ寺格飛擔ナリト雖特ニ左ノ色目ノ衣體ヲ許ス

法 服 濃 鼠

餘ハ飛擔衣體ニ同シ

裳 附 土器茶

右別ニ願ニ依リ本山ヲ除ク外許可スル者トス

(第九條成號書式ニヨルヘシ)

第四條 堂衆地ノ正副住職及候補衆徒ハ別ニ機席ヲ要セス第九號甲號書

式願書ニ乙號書式誓約書ヲ添ヘ其衣體着用ヲ願出ヘシ

第五條 堂衆地ニシテ出仕ヲ命セラレサルトモハ非役堂衆トス

第六條 非役堂衆ニシテ法要等ニ際シ一時出仕ヲ命セラレタル時ハ住職

ハ中坐ノ末班副住職ハ末座ノ末班候補衆徒ハ見習ノ末班トス

第七條 堂衆勤務中ハ勿論非役タリトモ此條例ヲ遵守セス職務ヲ怠リ行

儀ヲ亂リ或ハ上司及首座ノ指揮ニ服セス又ハ職務ヲ輕忽ニシテ行事ニ過誤アル者等總テ成規ニ違犯スル者ハ其違犯ノ輕重ニヨリテ處分シ重キハ其坐班ヲ褫奪シ平僧ニ下スヘシ

但宗制寺法ニ背ク者ハ之ヲ寺法第八十五條以下ニ照シテ黜罰スルコト一般末寺ニ同シ

第八條 堂衆地タランコトヲ欲スル者ハ第九條丙號書式願書ニ丁號書式

誓約ヲ添ヘ差出スヘシ

第九條 願書并ニ誓約書書式

甲號 衣體着用願用紙(美濃野紙一通)  
一私儀今般堂衆地相當衣體着用仕度候間御許可被成下度此段願  
上候也

京都府<sup>上</sup>下京區第何組何町

堂衆地何寺正(副)住職(候補衆徒)

年月日

何 某 印

(願人副住職以下ナレハ正住職連署スヘシ)

一藤奥書スヘシ

執事宛

乙號 誓約書(用紙濃白紙一通)

- 一今般堂衆地衣體着用之儀願上候ニ付テハ爾後左ノ條件屹度相  
守可申萬一違背仕候節ハ何體ノ御處分ヲモ蒙リ可奉候
  - 一堂衆地條例ヲ遵守可致事
  - 一出仕ヲ命セラレ候節ハ何時ニテモ無違背御請可申候事
  - 一出仕中及非役中ノ區分ヲ確守シ衣體ノ濫用等仕ラサル事
- 右誓約之通確守可仕候也

京都府上下京區第何組何町

堂衆地何寺正(副)住職(候補衆徒)

年月日

何 某 印

(同僚一名保證スヘシ)

執事宛

丙號 堂衆地御取立願(用紙美濃野紙二通)

京山市上下京區第何組何町 何寺

右寺儀從來堂衆勤續仕候ニ付堂衆地ニ御取立被成卜度此段願上候也

右寺住職

何 某 印

年月日

(一藤奥印スヘシ)

執事宛

丁號 誓約書 用紙美濃白紙一通)

- 一拙寺儀今般堂衆地御取立願上候ニ付テハ爾後左ノ條例屹度相守可申萬一違背仕候節ハ何體ノ御處分ヲモ蒙リ 申候
- 一堂衆地<sup>除</sup>例ヲ遵守可致事
- 一出仕ヲ命セラレ候節ハ何時ニテモ無違背御請可申上候事
- 一出仕中及非役中ノ區別ヲ確守シ衣體ノ濫用等仕ラサル事

右誓約ノ通確守可仕候也

京都府上下京區第何組何町堂衆地何寺住職

年月日

何 某 印

(一藤保證スヘシ)

執事宛



成號 色裳附着用願(用紙美濃野紙二通)

一私儀今般堂衆地相當色裳附着用仕度候條御許可被成下度此段願上候也

京都府上下京區第何組何町

堂衆地何寺住職(副住職候補衆徒)

何 某 印

(願人副住職以下ナレハ住職連署スヘシ)

(一萬奥書スヘシ)

執事宛

○所達第十九號 明治三十二年八月十七日

堂衆地身附ニ關スル事項取扱並願伺手續左之洲相定メ本年九月一日ヨリ施行ス

一 候補衆徒ヲラントスルモノ、得度願ヲ堂衆得度願ト名ケ冥加禮金五圓トス

二 堂衆得度受式ノ上ハ度牒及左ノ許狀ヲ授與ス

市區町

何寺衆徒

非役堂衆氏名

法服 濃鼠染色

裳附 黒染色 平絹

指貫 淺黄染色 平絹

五條 茶地紋白

紫地紋白

萌黄地紋白

輪袈裟 茶地同色紋 緞子

第七類 末 寺

異紋 緞子

右法用衣許着用仍證憑如件

年月日

總務氏名

- 三 堂衆得度願ト同時ニ一般ノ規定ニ依リ御傳鈔拜讀並傳授願ヲ差出スヘキモノトス
- 四 非候補衆徒タラントスルモノ、得度願ハ一般平僧得度願ノ規定ニ依ル
- 五 土器茶色裳附並直綴ヲ堂衆地特別衣體ト名ケ相當衣體着用許可ノ候補衆徒以上ニ限り依願着用（裳附ハ本山直綴ハ本山及別院ヲ除ク）ヲ許可セラル
- 但冥加禮金參圓トス
- 六 非候補衆徒ニシテ堂衆出勤ヲ命セラレタルモノハ堂衆相當衣體着用願（冥加禮金參圓）及御傳鈔拜讀並傳授願ヲ差出シ許可ヲ得ヘキモノトス特別衣體着用モ亦出願スルコトヲ得

但許可ノ後懲戒免役ニ處セラレタルトキハ同時ニ許可ノ効用ヲ失フモノトス

- 七 特別衣體ノ中曾テ色裳附着用ノ許可ヲ得タルモノハ色直綴着用ヲ追願スルヲ得此場合ニ於テハ特別衣體着用願冥加禮金ノ半額ヲ納ムヘシ
- 八 特別衣體着用許可ノモノニアラサレハ堂衆末座以上ニ薦擧セララルコトヲ得ス
- 九 特別衣體着用未出願ノモノニシテ特ニ末座以上ニ出勤ヲ命セラレタルトキハ直チニ出願ノ手續ヲナスヘキモノトス
- 十 末座以上ニシテ特別衣體着用許可ノモノニ限り伺之上在役中色裳附一般着用ヲ許可セラル
- 十一 在役中色裳附一般着用許可ノモノハ堂衆以外ノ正准役員其他使僧別院輪番兼役中兩堂出仕ヲ除キ色直綴一般着用スルコトヲ得但別院御下向中ハ伺ノ上之ヲ定メラル
- 十二 中座以上伺之上在役中色直綴一般着用ヲ許可セラル

明治三十

第七類 末 寺

十三 堂衆在役中例外ノ恩許ヲ得タルモノ明治二十八年三月堂衆地へ土器茶色直綴着用恩許ノ當時住職前副若クハ候補衆徒ニシテ今猶同寺候補衆徒以上タルモノハ必ズ記録願ヲ差出スヘシ各冥加禮金五拾錢トス

但整理獻金又ハ特別教務費寄附ニ關スルモノハ此限ニアラス

十四 堂衆地甲寺ニシテ相當衣體着用等ノ許可ヲ得タルモノ同地乙寺へ移轉シタルトキハ直チニ堂班衣體許狀成換願(冥加禮金五拾錢)特別衣體許狀裏書願(冥加禮金五拾錢)ヲ差出スヘキモノトス

第四款 附屬寺

○告達甲達五號 明治二十九年六月五日

附屬寺條例

第一條 附屬寺ハ寺號ヲ稱シ住職ヲ置クト雖モ諸別院又ハ一般末寺ニ附屬スルモノトス

第二條 附屬寺ノ寺格ハ飛擔ヲ踰ルコトヲ得ス其所屬寺ノ寺格飛擔以下

ナルトキハ一等ヲ降ルモノトス

但本條例發布以前既ニ餘間以上ニ昇階シタルモノ此限ニアラス

第三條 左ノ種類ニ係ル寺院ニシテ附屬寺タラントスルモノハ第一號書式ニ照シ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第一項 少檀微力ニシテ一般末寺ノ資格ヲ全フシ難キ者

第二項 明治九年宗規綱領發布以前某寺地中ニシテ現今一般末寺ニ編入シナカラ依然舊本坊ノ法務ニ從事シ居ル者

第三項 寺院明細更正前某寺道場又ハ通所ト稱シ留主居ヲ置キテ住職ヲ置カサリシ者

第四條 附屬寺ニシテ一般末寺ノ資格ヲ具備シ其所屬寺ノ承諾ヲ得テ獨立セントスルモノハ第二號書式ニ照シ許可ヲ受クヘシ

第五條 第三條第二項第三項ノ寺院ニシテ依然舊本坊ノ舊境内ニ居住シ又ハ舊本坊ノ法務ニ從事シナカラ舊本坊ヲ疎ニシ住職ヲ輕蔑シ或ハ其門徒ヲ誑誘シ和合ヲ破ル等ノ所爲アルトキハ本山ハ特ニ命シテ舊本坊ノ附屬寺タラシムルコトアルヘシ

第七類 末 寺

第六條 附屬寺住職ノ進退ハ其所屬寺住職ヨリ別院附屬ナレハ其輪番ヨリ薦舉スルモノトス其出願手續ハ定例ノ書式ニ照準スヘシ

第七條 附屬寺住職ノ試験ハ別ニ定ムル所ノ科目ニヨリ之ヲ調査スルモノトス

第八條 附屬寺ノ諸願伺届書ニハ必ス其所屬寺住職ノ連署ヲ要スルモノトス

但別院ノ附屬寺ナレハ其輪番必ス奥印スヘシ

第九條 附屬寺ノ住職ハ組長等ノ國役トナルヘキ資格ナキモノトス

第十條 附屬寺ハ住職進退禮金報恩講冥加金法要ノ香奠慶事ノ祝儀又ハ地方教學ニ關スル醜金組内費ノ課出ハ總テ一般末寺ノ半減トス

但御讀經禮金、御影願、授與物、得度、繼席ノ禮金等ハ本條ノ限ニアラス

第十一條 附屬寺住職タルモノ他ノ一般末寺住職ニ轉スルカ又ハ第四條ノ手續ヲ經テ一般末寺トナリ其住職タラントスルノ場合ニハ成規ノ教師試験ヲ行フモノトス

但本人既ニ教師ナルカ又ハ一般末寺ノ住職トナルヘキ資格ヲ具ヘタルモノハ本條ノ限ニアラス  
△第一號書式

附屬寺認可願	何府何國何市何郡何町何字何	第何組	何寺格	何	何
當寺雙方熟議ノ上附屬寺條例第三條ニ基キ何寺ノ附屬寺ト相成度候間御認可被成下度此段連署ヲ以テ願上候也	右何寺住職	右門徒信總代三名以上	姓	名	印
年月日	何府何國何市何郡何町何字何	何縣何國何市何郡何町何字何	姓	名	印
右願ニ附奥印仕候也	何縣何國何市何郡何町何字何	何府何國何市何郡何町何字何	姓	名	印
執事宛	第何組長	何寺住職	姓	名	印

△第二號書式

附屬寺認可願

何府何國何市何町何字何  
 何縣何國何郡何村何字何  
 第何組何寺格  
 何寺附屬寺  
 何寺

當寺從來何府何國何市何町何字何何寺ノ附屬寺ニ有之候處獨立維持ノ方法相立候ニ付今般所屬寺ノ承諾ヲ得テ一般末寺ニ編入ノ儀御認可被成下度此段連署ヲ以テ願上候也

右何寺住職  
 右門徒信總代三名以上  
 右所屬寺何寺住職  
 何府何國何市何町何字何  
 何縣何國何郡何村何字何  
 第何組何寺住職  
 法類總代

年月日

右願ニ附奥印仕候也

姓 名 印

執事宛	何寺住職	姓	名	印
第何組長				

○局達第十八號 明治二十二年七月十八日

明治二十一年九月告達第二十八號附屬寺取扱條規(報告第三一)ニ該當スル寺院ニシテ于今何等不申出者有之不都合之儀ニ候條遅ク共來ル明治二十三年三月三十一日限所屬相定メ申出ツヘシ

但第二條舊地中及ヒ第三條ニ該當スル寺院ハ右期限經過後ハ申出之有無ニ拘ハラズ總テ舊本坊ノ附屬寺ト相定ム

第二章 僧侶

第一款 得度

○從來素絹内陣餘間次三男得度不被許候處寺務改正ニ付被差許候事  
 但出仕席ハ一般餘間タルヘク候事  
 飛擔繼目自今十年未滿ノ者ハ不被差許候事

第七類 僧侶

右令報知候也

明治七年五月

○飛擔平僧侶得度ノ次第左ノ通可心得事

- 一、飛擔平僧ノ剃刀ヲ改メテ改度ト稱ス
- 一、未得度ノ者ハ飛擔繼目及出仕ヲ許サズ
- 一、次三男ニ至マテ得度ヲ許ス
- 一、飛擔地ノ者得度式ハ飛擔ノ間ニ於テシ平僧地ノ者ハ平陣前班ニ於テス

○坊主剃刀濟者ト云ヘトモ更ニ得度式可相受事

第二十三號 明治九年四月十九日

諸國協同並平僧中

從前坊主剃刀濟ノ者ハ得度濟ト致來候處右ハ別段儀式モ無之門徒剃刀同様ノ儀ニ付不都合ニ有之候間自今住職或ハ繼目出願之節坊主剃刀濟ノ者ト雖更ニ得度式爲 受候條此段相達候事

○所屬寺院ナキ者ハ得度不差許件

第六十六號 明治九年六月二十一日

總末寺中

今般四派協議ノ上各寺正副住職ヲ除ク外僧侶ノ子弟一般ノ平民共從前得度差許候者ハ總テ其所屬寺院ノ衆徒ト相稱候條此段相達候事

附自今所屬ノ寺院無之者ハ得度不差許候事

○宗規綱領第六編中ヨリ抜抄

第五款 諸規約

得度規約

- 第一條 凡得度ヲ允可スルハ教導職ノ子タルト否トニ關セストス
- 第二條 篤ク宗教ヲ信シ其性篤實ニシテ品行正シキ者ヲ選フ得度ヲ請フ者已ニ僧タル者二人以上ノ保舉ヲ要ス
- 第三條 受度者ノ才學學課ニ照シテ之ヲ試験ス
- 第四條 各派法主ニ非サレハ人ヲ度スルノ權ナシ故ニ度牒ハ必ス法主ノ名ヲ以テ之ヲ給ス即チ度牒書式如左

用紙生漉鳥ノ子

割印

何府縣華士族(平民)

何國何郡何町

苗字名幾男

苗字名

何年何月

眞宗度之  
牒牒證

右庶爲本宗僧侶加何府(縣)下何國何郡何町(村)何寺衆徒仍授牒如件

年月日

眞宗何派本山何寺住職

苗字名

第五條 度場ハ本山祖堂ニ於テスルニ限ルヘシ  
第六條 末寺衆徒得度法式一般ニシテ具略ヲ分タス

第七條 得度ノ節必ス誓約文ヲ出サシムヘシ

第八條 凡所屬ノ寺院ナキ者ハ之ヲ度セス

但於年ニ至リ所屬ノ寺院ヲ轉スルコトハ本人ノ情願ニ任ス然レトモ其節必ス之ヲ本山ニ届出ヘシ

第九條 甲派ニ於テ得度スル者乙派ニ轉スルコトアレハ乙派ニ於テ別ニ度式ヲ行ハサルヘシ

但兩派ノ照會ヲ經テ後甲派ノ度牒ヲ甲派ニ納メ乙派ニ於テ度牒ヲ受クヘシ

第十條 他宗ノ僧徒本宗ニ歸セントスルモノアルモ必ス改メテ度式ヲ行フヘシ都テ新度ノ徒ニ異ナルコトナシ

第十一條 本宗ノ僧事故アリテ他宗ニ轉スル者アラハ保舉人ニ命シテ度牒ヲ收メ之ヲ本山ニ納メシムヘシ

第十二條 不得止シテ歸俗スル者モ亦前條ニ同シ

第十三條 宗敎ニ違シ或ハ品行ヲ缺キ僧籍ヲ除クヘキ者ハ度牒ヲ收奪スヘシ

第七類 僧侶

第十四條 本人死スルコトアレハ保舉人或ハ所屬ノ寺院住職ヨリ度牒ヲ  
本山ニ納ムヘシ

入寺名籍規約

第一條 名籍ハ僧侶ノ子弟ト他ノ華士族平民ノ得度スル者トヲ選ハス  
屬ノ寺院ナキ者ハ之ヲ度セサルヲ以テ其原籍ニ拘ハラヌ宗内ニアリテ  
ハ必ス某寺ノ衆徒ト稱スヘシ

第二條 某寺ノ衆徒某寺ノ住職トナルニ當リテ其原籍ヲ改メサルヲ得サ  
ルコトアレハ豫メ前住ノ養子トシテ然ル後住職ヲ願出ヘシ  
但住職交代ノ節該寺附屬共有物授受ノ證ヲ本山ニ出サシメ住職及檀  
家ノモノタリトモ自儘ニ處分スルヲ得ス

○第二百二十六號 明治九年十二月二十三日

總末寺中

十三年四

宗規綱領中得度規約之儀來明治十年一月一日ヨリ施行候ニ付而者得度出  
願之者ハ左ニ掲記之通試験候條此段相達候事  
年齡七年以上ノ者

第二八、甲  
第一七、  
增加

小經 正信偈

但每部一箇所一葉宛

年齡七年以上十年未滿ノ者

三經音讀

但每部一箇所壹葉宛

年齡十年以上十三年未滿ノ者

三經音讀 五帖御文

但每部帖一箇所壹葉宛

年齡十三年以上十六年未滿ノ者

三經訓讀 廣文類御自釋訓讀

但每部一箇所一葉宛

年齡十六年以上ノ者

三經訓讀 改悔文通解

○第二百二十七號 明治九年十二月二十四日

宗規綱領中得度ニ關スル事項實施ノ件

第七類 僧侶

四六三



宗規綱領中得度式并ニ得度規約從來明治十年一月一日ヨリ施行候ニ付左ノ條件相心得ヘク此段相達候事

第一條 得度出願ノ者ハ本人願書(書式第一號)添書(書式第二號)誓約文(書式第三號)書式ノ通相認メ差出スヘシ

但寺務出張所々管ノ地方ハ更ニ出張所ノ添書ヲ請フヘシ

第二條 所屬寺院無之者ハ得度ヲ差評サ、ルコト

第三條 法名ニ情願アルモノハ得度出願ノ節申出ヘシ

但法名ヲ通稱ニ用フルト否トハ受度者ノ意樂ニ任ス尤モ通稱ニ用ヒ度者ハ地方廳聞濟ノ上本山ニ届出ヘシ

第四條 受度者試験法ハ本邦達書百二十六號ノ通りタルヘシ

第五條 得度式執行ノ上ハ宗規綱領中掲載書式通り度牒ヲ授與スヘシ

第六條 得度濟ノ者事故アリテ所屬寺院ヲ轉換スル時ハ届出度牒ニ裏書ヲ乞フヘシ

第七條 正副住職(兼住轉住共)退職ノ節ハ地方廳ノ許可ノ上前條同様裏書ヲ請フヘシ

明治十年  
二月甲第  
十二號ヲ  
以テ追加

但得度濟ノモノ事故アリテ改名ノセツハ本條ニ準スヘシ

第八條 度牒ハ大切ニ保管致スヘク若水火盜難等ニ罹ル時ハ其事由ヲ具陳シ更ニ請求スヘシ

第九條 本人死去ノ節ハ必ス保舉人ヨリ度牒ヲ本山へ返納スヘシ保舉人生存セサル時ハ組長ヨリ返納スヘシ

但寺務出張所々管ハ出張所へ差出シ同所ヨリ毎年十二月一纏シテ本所へ納付スヘシ

○餘間立得度復舊ノ件

甲第一號 明治十七年一月四日

總末寺中

得度式改定並住職ノ長男繼席ノ儀明治九年六月第六十四號同十二月第百二十七號ヲ以テ相達置候處今般改テ餘間以上長男餘間立得度式ヲ舊ニ復ス

但本年四月一日ヨリ施行ス

右稟命告達候事

第七類 僧 侶

○餘間立得度餘間出仕證下附ノ件  
丙第一號 明治十七年一月四日

總末寺 中

今般餘間以上長男得度式復舊ニ付テハ別ニ餘間繼席ノ許狀ヲ下附セズ度  
牒ト餘間出仕ノ許狀トヲ并テ交付シ餘間出仕ノ證下被成候條此段相違候  
事

○餘間立得度復舊ニ付明治十年甲第六九達書附言並十一年達書取消ノ件  
丙第五號 明治十七年一月十八日

今般餘間以上ノ寺迹ニシテ得度濟長男繼席ノ儀丙第二號ヲ以テ相違候ニ  
付テハ十年十月甲第六十九號達書附言並十一年二月甲第十六號達書取消  
候條此段相違候事

○餘間立得度許可ニ付伺ニ對スル指令

今般正副住職長男一名限餘間立得度許可ニ付テハ例ハ副住職ノ長男既ニ  
繼席許可相成候向ハ縱令正住職ノ長男餘間立得度願出ルモ許可無之正住  
職長男等亦繼席濟ノ者アレハ副住職ノ長男ハ餘間立得度許可無之儀ト相

心得誤認無之哉

(指令) 伺之通

○局達第十號 明治二十六年五月三十一日

得度願ハ滿六ヶ年以上ノ者ニアラサレハ許可セズ

但本達ハ來ル十一月一日ヨリ實施ス

○教學部告示第二號 明治三十七年三月二十二日

自今得度調査期日例月十三日ト相定ム

○教學部告示第三號 明治四十一年九月二十四日

得度調査ノ儀ハ自今各寺務出張所并ニ教務所(京都教務所ヲ除ク)ニ於テ  
之ヲ施行シ猶便宜上本部ニ於テモ從前ノ通り例月十三日得度調査ヲ執行  
ス

○告示第九號 明治三十七年三月二十二日

自今得度式ノ儀毎月十五日ニ決定ノ旨申出サル

○告示第十號 明治三十七年三月二十二日

今般得度式日例月十五日ト御治定相成候ニ付テハ十二日マテニ着京出願

スヘシ

○庶務部告示第一號 明治三十七年三月二十八日

今般得度式定日及ヒ着京出願期限相定メラレ候處禮金等ヲ所轄教務所ニ相納メ出京ノモノハ寺務所ニ於テ願書受付後會計上ノ手續ヲ要スルニ付出願期限(例月十二日)ニ當リ其手續ヲ了セサルトキハ受式ニ差支候條右等ノ願人ハ自國出發ニ先ダテ願書ヲ教務所ニ致シ(教務所ヨリ例月五日マテニ寺務所ニ郵着シ得ヘキ日數ニ注意)進達ヲ請フヘシ但此場合ニハ願人着京ノ旨ヲ當部ニ届出ツ可キモノトス

第二款 衆徒

衆徒取扱條規

○告達第十五號 明治三十七年六月十日

衆徒取扱條規左ノ通改定ス

衆徒取扱條規

- 一 住職ヲ嗣クヘキ子弟ニシテ得度シタル者之ヲ候補衆徒ト名ク
- 二 候補衆徒ハ寺格ヲ襲ヒ繼席並恩免願ヲ爲スコトヲ許サル

三 候補衆徒死亡シ眞子弟若クハ養子ヲ以テ候補ト爲サントセハ一號

様式ニ依リ認可ヲ受ク可シ

四 事故ノ爲メ候補衆徒ヲ辭スルニハ二號様式ニ依リ認可ヲ受ク可シ

五 候補衆徒ヲ辭退シタル者之ヲ罷候補衆徒ト名ク

六 罷候補衆徒ハ候補ヲ辭シタル現時堂班ノ常末トシ許可セラレタル

恩免衣體等ハ舊ニ仍ラシム

七 罷候補衆徒舊ニ復シ候補衆徒タラントセハ三號様式ニ依リ認可ヲ

受ク可シ

八 副住職ヲ辭シ衆徒ト爲リタル者之ヲ退職衆徒ト名ク

九 退職衆徒ハ許可セラレタル堂班並恩免衣體等ハ舊ニ仍ラシムト雖

其以上出願ヲ爲ステ許サレズ

異姓異籍ノ退職衆徒ハ副住職ヲ辭シタル現時堂班ノ常末トシ

(院家ハ七等席常末)許可セラレタル恩免衣體等ハ自ラ其効用ヲ

失フモノトス

十 退職衆徒及罷候補衆徒他寺ニ移轉シ候補衆徒タラントセハ衆徒移

轉並度牒裏書願候補衆徒認可願ノ許可ヲ受ク可シ  
十一 退職衆徒及罷候補衆徒他寺ニ移轉シ候補衆徒タル者ハ寺格ニ依リ

堂班許狀成換願復座願ヲ爲スコトヲ許サル

十二 候補ノ資格ニ非スシテ程度シタル者之ヲ一般衆徒ト名ク

第三款 正副住職

甲第三十一號 明治十九年八月七日

末寺住職進退取扱規則

第一條 正副住職ノ薦擧ヲ得ル者ハ本派末寺ノ衆徒ニシテ住職調査法

(本年甲第七條達)ニ合格スルモノニ限ル

第二條 住職及衆務ヲ辭退セントスルトキハ後住職ヲ撰定シ第一號書式ニ準シ願出ヘシ

第三條 住職死亡又ハ事故アリテ無住トナリシ向副住職又ハ衆徒ヲ以テ後住職ニ薦擧セントスル時ハ第二號書式ニ準シ願出ツヘシ

第四條 前條ノ場合ニシテ直ニ後住職ヲ撰定シ難キ時ハ第二號書式中衆務ノ部ニ準シ兼務住職ヲ撰擧スヘシ

第五條 副住職ヲ薦擧スル時ハ第二號書式ニ準シ願出ヘシ

第六條 他寺ヲ兼務シタル者本務寺ノ正副住職ヲ辭シ或ハ他ニ移轉ヲ願フトキハ兼務モ併セテ辭退又ハ本務ニ引直ノ節ハ第四號書式ニ準シ願出ツヘシ

第七條 甲寺ノ衆徒ヲ以テ乙寺ノ住職ヲ願出ツル時ハ第一號第二號書式中ヘ甲乙兩寺住職連署スヘシ

但他組ノ寺院ノ衆徒ナレハ該組長奥印スヘシ

第八條 副住職ヲ以テ住職トスルトキハ書式中試験證書以下誓約證書相添迄ノ文字ヲ削除スヘシ

但十七年已前副住職拜命ノ者ハ誓約證書相添フルモノトス

第十條 前條辭令拜受ノ上ハ第六號書式ニ準シ五日以内ニ請書并ニ名刺ヲ差出スヘシ

○告達甲第三號 明治二十九年六月五日

明治二十六年二月告達第四號左ノ通修正ス

自今教師ニ非レハ一般末寺ノ住職(開教地創立寺院ノ初代住職ヲ除ク)ヲ

ルヲ許サス

但明治二十七年六月以前ノ住職調査ヲ受ケ既ニ副住職トナリ又ハ其有効證書ヲ有シ住職タラント欲スル者ハ此限ニアラス

○告達第五號 明治二十六年二月二十三日

非教師ニシテ一般末寺ノ副住職タラント欲スルモノハ別ニ定ムルトコロノ規則ニ依リ試験ヲ行ヒ合格ノモノハ之ヲ許ス

但非教師副住職ハ國役ヲ撰舉シ又ハ撰舉セラル、ヲ得ス

非教師副住職ハ他寺ヲ兼務スルヲ得ス

非教師副住職ハ住職死亡等ノ後其寺務ヲ管理スト雖モ世代ニ加フルヲ得ス

○住職死亡後後住選定願出期間ノ件

明治二十八年局達第二十號訓示第六號ノ趣意ニヨリ住職死亡等ノ節ハ必ス五十日以内ニ右手續ヲ履ミ後住職又ハ兼務住職薦舉出願致ヘシ

明治三十一年二月五日

第四款 僧綱僧位

庶務科

○告達第拾四號 明治三十二年三月三十一日

僧綱僧位補授規則

第一條 僧綱僧位ニ補スルハ總テ本規則ニ依ル

第二條 京都東京眞宗中學卒業ノ者ハ入位又ハ滿位ニ眞宗大學本科卒業ノ者ハ權律師又ハ律師ニ研究院ニ入り成規ノ檢定ヲ經タル者ハ權僧都又ハ僧都ニ補ス

第三條 眞宗中學實修科卒業ノ者ハ滿位又ハ法師位ニ又僧位ヲ有スル者ニシテ教導講習院卒業ノ者ハ權律師又ハ律師ニ補ス

第四條 毎年二回(四月九月)京都眞宗中學ニ於テ檢定試験ヲ行ヒ合格ノモノハ入位ニ補ス

第五條 檢定試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ派内ノ僧侶ニシテ年齡滿二十歲以上ノ者トス

第六條 左ノ各項中第一第二項ニ該當スルモノハ法師位以下ニ第三項以下ニ該當スル者ハ入位ニ補ス

一 尋常中學卒業以上ニシテ宗餘乘ニ關シ相當ノ履歷ヲ有スル者

第七類 僧 侶

四七三

- 二 此規則實施以前眞宗中學卒業シ權少助教已下ニ補セラレタル者
- 三 明治二十一年三月告達第十號以來ノ住職調査ヲ經テ正副住職又ハ前住職タル者
- 四 従前教師試験ニ合格シタル者
- 五 法滿十五年年齢二十五年以上ニシテ大學寮安居七夏以上ノ聽講證ヲ有スル者
- 六 前住職ニシテ年齢滿五十年以上ノ者及此規則施行前ヨリ住職タル者ニシテ相當ノ學歷ヲ有スル者
- 七 従前ノ非教師副住職ニシテ就職ノ日ヨリ十ヶ年ニ滿テ職務ヲ全フセシ者
- 第七條 僧位ヲ有スルモノニシテ教學ニ殊勳アル者及德行他ノ模範トナルモノハ相當ノ僧綱ニ補ス
- 第八條 檢定試験ニ關スル細則ハ勸學局長之ヲ定ム
- 第九條 明治三十二年ニ限り眞宗中學第三學年修了ノ者及大學寮安居五

附 則

夏以上ノ聽講證ヲ有スル者ハ入位ニ補ス

第十條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○告達第八號 明治三十九年四月

明治三十二年告達第十四號僧綱僧位補授規則第六條第一項ニ據リ僧位補授ノ餘考ヲナスハ左ニ掲ケル各學校ノ卒業者ニ限ルモノトス

- 一 公立中學校卒業者
  - 一 徵兵令第十三條ニ依リ認可ヲ得タル私立中學校卒業者
  - 一 師範學校卒業者
  - 一 專門學校令ニ依リ認可ヲ得タル專門學校本科卒業者
- 本規定ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 錄

第五款 坊守、役員内房

○内達甲第參號 明治三十四年四月七日

末寺坊守徽章内規

第七類 坊守、役員内房

第一條 末寺坊守ニハ一定ノ徽章ヲ附與シ本山別院及末寺等 要其他儀  
式ノ節之ヲ佩用セシム

坊守トハ住職副住職前住職前々住職ノ内房ヲ總稱ス

第二條 徽章佩用者ハ別ニ定ムル所ニ依リ相當ノ待遇ヲ受クルモノトス

第三條 住職副住職及前住職前々住職カ其職ヲ罷免セラレ又ハ黜例ニ

依リ處分セラレタルトキハ其坊守ハ資格ヲ失フモノトス

坊守カ其資格ヲ失ヒ又ハ坊守ノ待遇ヲ停止セラレタルトキハ徽章ヲ褫

奪セラレ、モノトス

第四條 徽章ノ交付ヲ受クルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ相當ノ算加金ヲ

納付スルモノトス

第五條 徽章ノ等級ハ十二等トシ其樣式ヲ定ムルコト左ノ如シ

一等 紅地拾金八葉牡丹紋

二等 躑躅色地拾金八葉牡丹紋

但准中緒地ハ六藤紋六藤家紋ニアラサル向ハ落牡丹紋

五ヶ寺  
巡讀地  
別格中緒地  
准由緒地

三等 萌黄色地拾金六藤紋

一等別助音地  
准一等別助音地

但准地落牡丹紋若シ六藤家紋ノ向ハ六藤紋ヲ用ユ

四等 萌黄色地陽金六藤紋

一等別助音地  
准二等別助音地

但准地ハ落牡丹紋若クハ六藤家紋ノ向ハ六藤紋ヲ用ユ

五等 萌黄色地張金落牡丹紋

別助音地

但六藤家紋ノ向ハ六藤紋ヲ用ユ

六等 萌黄色地黃落牡丹紋

助音地

七等 萌黄色地白落牡丹紋

院家地

八等 紫色地蒔落牡丹紋

内陣地

九等 紫色地白落牡丹紋

餘問地

十等 茶色地落牡丹異紋綴子

飛擔地

十一等 茶色地落牡丹同色紋綴子

堂衆地

第十二條 本内規ハ徽章ヲ受ケタルモノハ他ノ徽章ト併セ佩用スル事ヲ得

第七類 坊守、役員内房

○内達甲第四號 明治三十四年四月七日

末寺坊守待遇法

第一條 坊守及内房ハ兩堂柵内拜禮ヲ許サル

但法要ノ節ハ別ニ設ケラル、席ニ於テ拜禮ヲ許サル別院法要ノ節ハ前項ノ例ニ準ス

第二條 坊守ハ上京ノ都度左ノ通御禮ヲ許サル

一 御門跡御禮白書院代二ノ間ニ於テ

助音地以上

一同 上

餘間 以上

一 御門跡御禮白書院代三ノ間ニテ

飛擔地 以下

御下向ノ節ハ前項ノ例ニ準ス

○内達甲第五號 明治三十四年四月十三日

旌章拜受者内房待遇法

第一條 旌章拜受者内房ハ兩堂柵内拜禮ヲ許サル

但御法要ノ節ハ別ニ設ケラル、席ニ於テ拜禮ヲ許サル別院法要ノ節ハ前項ノ例ニ準ス

第二條 旌章拜受者内房ハ上京ノ都度左ノ通御禮ヲ許サル

一 御門跡御禮白書院代二ノ間ニ於テ

一 御下向ノ節ハ前項ノ例ニ準ス

○内達甲第六號 明治三十四年四月十三日

役員内房待遇法

第一條 役員内房ハ兩堂柵内拜禮ヲ許サル

但御法要ノ節ハ別ニ設ケラル、席ニ於テ拜禮ヲ許サル別院法要ノ節ハ前項ノ例ニ準ス

第二條 役員内房ハ上京ノ都度左ノ通り御禮ヲ許サル

一 御門跡御禮白書院代三ノ間ニ於テ

例 授 以上

一 御下向ノ節ハ前項ノ例ニ準ス

第七類 坊守、役員内房



○内達甲第七號 明治三十四年四月十三日

旌賞拜受者ノ内房旌章内規

第一條 旌賞拜受者ノ内房ニハ其旌賞ニ準シ一定ノ旌章ヲ付與シ本  
山別院及末寺等ノ法要其他儀式執行ノ節之ヲ佩用セシム

第二條 旌章ノ佩用者ニハ別ニ定ムル所ニヨリ相當ノ待遇ヲ受ケルモ  
ノトス

第三條 旌賞拜受者ニシテ其旌賞ヲ褫奪セラレタルトキハ共ニ褫奪セラ  
ル、モノトス

第四條 旌表徽章ハ種類ヲ分チテ十種トシ其様式ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一種 緋色金雲立箴 藤紋
- 第二種 紅木蘭色金雲立箴牡丹紋白緑金
- 第三種 棒色金雲菱鶴丸紋白緑金
- 第四種 栗皮色金陰散雲菱鶴丸紋白緑金
- 第五種 柳茶色金陰散雲菱鶴丸紋白緑金
- 第六種 葉茶色白茶雲散菱鶴丸紋白緑金

第七種 鶴茶色同色陰散雲菱鶴丸紋白緑金

第八種 銀鼠色同色陰散雲菱鶴丸紋白緑金

第九種 白茶色同色陰散雲菱鶴丸紋白

第十種 花田色同色陰散雲菱鶴丸紋白

第五條 本内規ノ徽章ヲ受ケタル者ハ他ノ徽章ト併セテ佩用スル事ヲ得

○内達甲第八號 明治三十四年四月十三日

役員内房徽章内規

第一條 寺務所寺務出張所教務所役員ノ内房ニハ一定ノ徽章ヲ付與シ本  
山別院及末寺ノ法要其他儀式ノ節之ヲ佩用セシム

第二條 徽章佩用者ニハ別ニ定ムル所ニ依リ相當ノ待遇ヲ受ケル者トス

第三條 徽章ノ様式ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 特授役員ノ内房

銀鼠色地平金散雲捻金落牡丹紋

第二類 親授役員ノ内房

萌黄色地平金散雲平金落牡丹紋

第七類 坊守、役員内房

第三類 稟授役員ノ内房

萌黄色地散雲紋平金落牡丹紋

第四類 例授役員ノ内房

濃鼠色地散雲紋茶落牡丹紋

第四條 本内規ノ徽章ヲ受ケタル者ハ他ノ徽章ト併セ佩用スルコトヲ得

### 第三章 門 徒

第一款 講師、商量員規定

○告達第十一號 明治四十二年四月八日

一 門徒中從來ノ家格又ハ相當ノ資産ヲ有シ而モ宗教護持ノ志篤キ者  
ヲ選ヒ講師及ヒ商量員ヲ依頼ス其名稱左ノ如シ

總 講 頭

講 頭 格

准 講 頭 格

准 講 頭 格

商 量 員

商 量 員 格

准 商 量 員

准 商 量 員 格

一 前項講師ノ坐次ハ一般門徒ノ上ニ列シ商量員之ニ亞クモノトシ其  
待遇ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

○内達甲第七號 明治三十九年四月八日 各 局 部

總講師准講師商量員ノ次ニ准商量員ヲ置キ其待遇ヲ例授トス

○内達甲第五號 明治三十九年四月八日

准講師ノ次ニ准講師格ヲ置キ其待遇ヲ例授トス

○内達乙第七號 明治四十年四月一日

准商量員以上ノ肩衣並同家族徽章左ノ通り相定ム

准商量員以上肩衣

總 講 頭 抱牡丹紋紅葉櫻色

講 頭 六藤紋葉櫻色

第七類 門 徒

准 講 頭

六藤紋樺色

商 量 員

落牡丹紋滄丁子色

准 商 量 員

落牡丹紋黃色

准商量員以上家族徽草

總講頭家族

金兜牡丹紋

綾赤色

講頭 家族

金六藤紋

綾紫色

准講頭家族

銀六藤紋

綾紫色

商量員家族

銀落牡丹紋

綾萌黃色

准商量員家族

銀落牡丹紋

綾黃色

第二款 諸國詰合同行心得書

○局達別第八號 明治三十一年二月二十八日

示 談 方 中  
世 話 方 中

諸國詰合世話方同行心得書別紙之通相定ム

諸國詰合世話方同行心得書

在京詰合ノ世話方同行ハ固ヨリ本山守護ノ爲メ一國一郡等ノ總代トシテ  
 上京セシモノナレハ一人ノ心得ハ自然一國一郡等ノ人心ニ關係致スヘキ  
 ニ付キ篤實忠誠苟モ其本分ヲ忘レズ常ニ左ノ條件ヲ遵守致スヘキ事

一 本山ノ取持ハ固ト知恩報德ノ經營ニ出ルモノナレハ法義相續ノ上  
 ヨリ謝ノ實意ヲ以テ諸事取持致スヘキ事

一 在京中ハ相互ニ申合セ精々總會所ニ參集シ法義示談怠ルヘカラサ  
 ル事

一 兩堂ノ再建ハ興隆佛法ノ因縁報謝經營ノ事業ナレハ其本意ヲ體認  
 シテ一巳ノ癖癡ヲ慕ラス我慢偏執ニ流レズ互ニ一和合ニ入り同心  
 協力シテ報謝ノ實効ヲ奏スヘキ事

一 威權ヲ張リテ他ヲ凌蔑シ又ハ嫉妬ヲ抱キテ人ヲ嫌疑スルカ如キハ  
 通常ノ人モ尙之ヲ耻ツヨヤ報謝ノ實意ヲ表スル信者ニ於テハ右等  
 ノ弊無之様常ニ佛祖ノ冥見ヲ畏レ方正篤實互ニ交誼ヲ全スヘキ事

一 若シ心得違ノ者アルトキハ同行ノ親愛交誼ヲ以テ相互ニ忠告スヘ  
 シ其再三ニ及フモ尙之ヲ用ヒサルトキハ其主務役員ニ申告シテ説

諭ヲ請フヘキ事

一 本山ヨリ告達スル所ノ趣意及再建工作ノ實況等ハ時々國許へ通報スヘキ事

但漫ニ風説ヲ輕信シ眞偽ヲ實サス誤謬ノ報知ヲ傳フヘカラス

一 本山ヨリ命セラレタル分擔ノ事務ハ即チ佛祖へ對スル報謝ノ義務ト心得毫モ粗漏怠慢ナク相勤ムヘキ事

一 出京又ハ歸國ノ節ハ都度主務部ニ届出ヘキ事

第三款 門徒

○局達第十四號 明治二十一年八月四日

宗制寺法第三編第一章第四十七條各寺門徒總代ノ儀ハ本年十二月三十日限取定メ遲滯ナク届出スヘシ

○局達第十五號 明治二十一年八月四日

宗制寺法第三編第五章第六十三條門徒名簿ノ儀左ノ雜形ニ照準シ本年中ニ調製備置クヘシ

雜形

何國何區何郡何町何寺門徒名簿	何國何區何郡何町何番地	戶主	氏	名何年何月生
	華士族			
	平民	父 (養父)		名何年何月生
		母 (養母)		名何年何月生
何年何月死亡		祖父(曾祖父)		名何年何月生
		祖母(曾祖母)		名何年何月生
		妻		名何年何月生
		長男		名何年何月生
何年何月何國何區何郡何町何某へ嫁ス長女				名何年何月生
		二男		名何年何月生

第七類 門徒

### 第四章 雜 令

#### 第一款 法寶物

○開扉展觀等規約別紙之通取定候條及御通知候也

四月二日

眞 宗 局

東本願寺寺務所御中

別紙

#### 開扉規約御届

本年一月二十八日開帳之儀ニ付云々相伺候處取締方規約等取設可届出  
トノ御指令有之因而今般規約取設候條別紙相添御届仕候也

眞宗四派管長

專修寺住職

大教正 常盤井堯熙

明治八年二月十二日

教部大輔穴戶磯殿

開扉規約

第一條 未派中ニ於テ法寶物ト稱シ傳來ノ品類其本山ニ於テ眞實鑑定ノ  
上教義上差支無之品ニ限リ鑑定證書可相渡尤モ鑑定證書不相渡分ハ其  
所有ノ寺院中ト雖トモ開扉展觀等不相成候事

第二條 鑑定證書有之品ニ限リ開扉展觀等致度向ハ前以其品目附テ添其  
本山へ願出本山添書ヲ以テ該地管轄廳ノ許可ヲ經テ可施行事

第三條 未派中所有之法寶物ト雖前條ノ手續ヲ經ス鑑定證書無之品類開  
扉展觀等致候向ハ管長或ハ本山ヨリ差止方其地方廳へ可及乞合候事

第四條 凡ソ何人ノ所有ヲ問ハス本宗開祖及歷代ノ肖像法寶物類開扉展  
觀等致教義上ノ妨害ニ可相成筋有之節ハ本山ヨリ其地方廳へ事由申立  
差止方可及協議候事

第五條 開扉展觀等ニ托シ猥ニ勸財ノ所業堅禁止候事

○局達第六號 明治二十一年四月五日

末寺法寶物點檢證紛失届及ヒ再下附願手續左項ノ通相定ム  
法寶物點檢證紛失届及再下附願手續

一 水火盜難等ニ罹リ法寶物點檢証失亡候節ハ證券番號並ニ品目等詳

細記載シ保證人連署組長與印ノ上速ニ届出ツヘシ

但在家ハ手次寺住職連署スヘシ

- 一 前項ニ依リ法寶物點檢證再下附テ請フ者ハ左ノ書式ニ准シ願出テ  
冥加金トシテ金五拾錢以上ヲ納ムヘシ

書式略之

○局繕第一號 明治二十二年一月七日

他管持出開扉條規左ノ通相定ム

他管持出開扉條規

第一條 末寺傳來ノ寶物中鑑定證書有之佛像類ニ限リ他管信徒ノ招請ニ  
應シ持出開扉セントスルトキハ添書願出ツヘシ

第二條 添書出願ノ際該鑑定證書寫、品目附、管廳へ出願書寫、及ヒ出  
張巡回届書ヲ差出スヘシ

但出張巡回届書ハ左ノ書式ニ準スヘシ

開扉出張巡回届

何府何國何區何町  
何縣何郡何村

自何年何月何日 何日間  
至何年何月何日 何日間

第何組

何

寺

何府何國何區何町  
何縣何郡何村

自何年何月何日 何日間  
至何年何月何日 何日間

第何組

何

寺

右之通開扉仕候條此段御届仕候也

何府何國何區何町  
何縣何郡何村

第何組 何寺住職

何年何月何日

姓

名印

執事姓名宛

第三條 管護ノ僧侶開扉ニ因ミ説教ヲ施行スルコトヲ許サス

第四條 説教場及ヒ俗家ニ於テ開扉スルコトヲ許サス

第五條 宿泊又ハ立寄タル箇所ニ於テ内拜等ト唱ヘ諸人ニ參拜セシムル

コトヲ許サス

第六條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ巡回地方ノ教務所ノ教務所未設置

ヘ左ノ達書ヲ送附スルモノトス

何府何國何郡何町

第何組

何

寺

該寺傳來左記ノ佛像等今般依頼其國別紙列記ノ寺院ニ於テ開扉  
開濟候條其實況ヲ監査シ不都合ノ所爲等有之節ハ速ニ本所へ具  
申可致此段申入候也

一何木像

一何繪像

以上何點

一 一 區 區

何年何月何日

本山寺務所

何府何國教務所(教務所未設置ノ地方ハ組長)

別紙

何郡區何町(村)

自何年何月何日

第何組

何

寺

至何年何月何日

何郡(區)何町(村)

自何年何月何日

第何組

何

寺

以上何箇寺

第七條 持出開扉ノ日數ハ一百日ヲ踰エヘカラス

第八條 種々ノ名義ヲ假設シ募財スルコトヲ許サス

第九條 添書ヲ願出ツルニハ禮金五圓ヲ納ムヘシ

第十條 持出開扉ヲナスニ當リ第一條第二條ノ手續ヲナサハル者ハ勿論

正當ノ手續ヲ經テ許可ヲ受タルモノト雖モ第三條第四條第五條第七條

第八條ヲ違犯スルモノハ其開扉ヲ中止シ寺法ニ照シテ其住職ヲ黜削ニ

處ス 但第三條第八條ヲ違犯スルトキハ宿寺ノ住職モ共ニ處罰スルモノト

明治三十三年十月  
變更

ス

○局達第二十三號 明治二十三年八月二十三日

鑑定證ヲ付與シタル法寶物ヲ讓與スルトキハ左ノ各項ニヨリ裏書又ハ證書分割ヲ願出ヘシ

但寺法第百二十一條ニ該當スル物品ハ該條ノ手續ヲ經由シタル後メ  
ルヘシ

一鑑定證ヲ付與シタル法寶物ニシテ裏書ヲ要スルトキハ冥加金五拾錢ヲ添ヘ一號書式ニ準シ願出ヘシ

一葉ノ鑑定證列記ノ物品中數點ヲ分割讓與シタルニヨリ別ニ證書ノ付與ヲ要スルトキハ冥加金一圓ヲ添ヘ二號書式ニ準シ願出ヘシ

○末寺法寶物鑑定證券左ノ雜形之通被相定候條若寶物多數ニテ一紙ニ認メカタク向ハ甲乙等ノ番號ヲ以テ數紙附與可致此段令通知候事

朱割印	證券	何府 何縣下何國何郡何町	何寺什物
朱印	一何	朱番號	何寺什物
朱印	一何	朱印	一何

朱印 右令鑑定候ニ付證券附與候條左之件々堅可相守者也

一水火盜難ハ勿論鼠害蠹蝕等無之様堅ク注意シ永世  
大切ニ可護持事

一開 等施行ノ節規約ニ違セサル事

一典賣等不相成ハ勿論ニ候得共無據事故有之他へ讓

渡候節ハ當時ノ住職並檀家總代連印ヲ以テ地方廳及

本山へ届出證券印稅第一類物品讓與規則ニ準シ讓

渡候上裏書ヲ乞フヘキ事

一住職交代之節ハ此證券ヲ差出シ裏書ヲ乞フヘキ事

年號月日

本山寺務所 苗字名印  
同 聚覽掛 苗字名印

證券裏朱書

何世住職

明治年月日印

苗字名

第七類 雜 令

四九五



寺務所某印

○配紙第二百五葉以下ニ紙知候末寺法寶物鑑定證券認方之儀ニ付左之一條増候事

- 一 二ヶ寺以上共有ノ法寶物鑑定證券之儀表書ニハ何組等ト記シ裏書ニハ其組合中ニ於テハ護持當番相立其一名ノミナ記シ當番交代ノ節ハ表書第四條ニ照準シ更ニ裏書ヲ乞フヘキ事

○乙第五號 明治十七年三月十三日

各別院

諸末寺傳來ノ法寶物ヲ別院ニ於テ開扉展覽等ノ儀自今許可不致候條此段相違候事

第二款 收骨

○所達第三號 明治三十三年二月一日

堂班餘間地以上ノ者大谷收骨添願書ヲ收骨並ニ添願書ト改稱シ冥加禮金壹圓ニ相定△

但身一代若クハ僧綱等對配堂班餘間出仕以上ノ者モ主文ニ同シ

○庶務部告示第五號 明治三十八年五月十七日

明治二十八年局達第十七號ヲ以テ本派門徒ニシテ從軍ノ將校以下一般軍人收骨ニハ手次寺ノ證明書携帯スヘキ旨達前有之ニモ拘ハラズ證明書持參セサル者往々有之取扱上差支不慚依テ右收骨ノ際ハ必ス手次寺ニ於テ證明書相認メ持參爲一候様注意スヘシ

○告達第二十號 明治三十八年一月十一日

明治二十九年告達第十號ヲ左ノ通改正ス  
自今特授ノ役職務ニ任シ若クハ待遇ヲ與ヘタル者ハ其夫妻ニ限リ須彌檀收骨ヲ許可ス

第八類 堂班衣體並服制

第一章 堂班

○第百一號 明治九年九月二十六日

總末寺中

從前冥加地下稱シ堂班繼席並衣體免許等願出候節冥加禮金ヲ以テ許可致シ來候向モ有之候處今般諸禮金改定相成候ニ付而者右冥加地之向ト雖今後一般改定禮金ヲ以テ取扱候條此段相達候事

(但寺附冥加之儀ハ當分從前之通可相心得候事)

○甲第十四號 明治十一年二月二十日

總末寺中

從前看坊飛擔之儀自今其身一代外陣列座へ編入候條此段相達候事

○甲第四十一號 明治十一年五月二十九日

總末寺中

自今堂班餘間以上存命贈階之例ヲ廢シ總テ前住職ハ願ニ依リ寺格相當堂

第八類 堂班

四九九

明治十年五月十五日  
甲第十五日  
第十號ヲ以テ取消

班出任許可候條此段相違候事

但已ニ贈階許可セシ者ハ從前之通取扱於中出任座席情願之者ハ更ニ願出不苦尙死亡贈階ハ從前之通ニ候事

○庶務課兼度支課九級出任佐々木誓成伺

本年達書甲第四十一號自今堂班餘間以上存命贈階之例ヲ廢シ更ニ願ニ依テ寺格相當堂班出任許可云云御達ニ付脇間以下ノ者モ右同様堂班出任御許可相成候哉

朱書「指令」伺之通

明治十一年九月四日

○甲第五十五號 明治十三年十一月二十七日

總末寺中

總末寺之由去ル明治十年以後ニ於テ寺號公稱許可之向ハ該寺住職初代二代之間堂班餘間昇階許可不相成候條爲心得此段相違候事

但歸參其他特別ノ專故アル分ハ此限ニアラス

○甲第十一號 明治十七年四月八日

總末寺中

今般別助音ノ次ニ二種ノ寺格ヲ設ケ之ヲ助音地ト稱シ由緒有之寺迹ハ特別ヲ以テ恩許スルモノトス  
右稟命告達候事

○丙第十八號 明治十七年四月八日

總末寺中

助音地例格左之通被定候條此段告示候事

助音地例格

翌年内陣列座

翌年内陣本座

上局 直達

金入輪架裝

金入咒字襷裝

助音

○丙第四十二號 明治十七年七月十八日

第八類 堂 班

維新後葬場座次教職ノ等級ヲ以テ着席候慣例ニ候處自今派内ハ堂班座次

ヲ以テシ他宗派會同ノ節ハ教職ノ順席ヲ以テ相定ムヘク此段相違候事

○告達第二十號 明治二十年九月五日

寺法第五十一條ニ依リ堂班名稱自今左ノ通改定ス

院家、内陣、餘間、飛擔、外陣、

○告達第二十一號 明治二十年九月九日

院家地へ願ニ依テ左ノ例格ヲ許ス

一 素絹地一等例格

翌年内陣

巡年素絹

金入輪袈裟素絹後三年目

一 素絹二等例格

翌年内陣

金入咒字袈裟茶紐圖許限着用金輪後三年目

巡年素絹

金入輪袈裟素絹後三年目

第一項へ

但翌年内陣寺格ノ者

金五拾圓

第二項へ

但翌年素絹寺格ノ者

金七拾五圓

第三項へ

但翌年内陣寺格ノ者

金七拾五圓

第四項へ

但翌年素絹寺格ノ者

金百圓

○告達第二十二號 明治二十年九月九日

餘間以上末寺中

今般未滿繼席並一般衆徒堂班出仕特許餘例ヲ定メ本年十一月二日ヨリ施行セシム

右稟命告達候事

未滿繼席並一般衆徒堂班特許條例

明治二十年八月二十日  
達九日明告  
達二十日明告  
達二十日明告  
第二號報拾七  
第一號報拾七  
滿發席未  
堂班特許  
條例第三  
條項目但  
スヘテ追加

第一條 内陣地以上ノ候補衆徒年限未滿ニシテ繼席ヲ出願スル者ハ左ノ條項ニ照シテ特許ヲ與フルモノトス

第二條 未滿繼席ヲ出願スル者ハ常例繼席ノ願書ニ第八條甲號書式ノ願書ヲ添ヘ差出スヘシ

第三條 未滿繼席ヲ出願スル者ハ常例繼席禮金ノ外ニ左項ニ照シ冥加金ヲ納ムヘシ

- 一 餘間得度ノ年内ニ内陣繼席ノ者 金七拾五圓
- 一 内陣繼席ノ年内ニ素絹繼席ノ者 金百圓
- 一 餘間得度後逗留中ニ内陣繼席ノ者 金百圓
- 一 同逗留中引次素絹繼席ノ者 金百廿五圓
- 一 餘間得度ノ翌年ニ内陣繼席ノ者 金五拾圓
- 一 内陣繼席ノ翌年ニ素絹繼席ノ者 金七拾五圓

第四條 素絹二等例格地以上其他特別ノ例格アル者ハ其寺例ニ據ルコト勿論ナリト雖モ其例格ヲ踰エテ未滿ノ繼席ヲ願フ者ハ總テ此ノ條例ニ準スヘシ

第五條 餘間地以上正副住職ノ眞子弟ニシテ該寺ノ一般衆徒タル者第八條乙號書式ノ通出願スル時ハ左項ニ照シテ堂班出仕ヲ特許スル者トス

- 一 餘間地 冥加金五拾圓
- 一 内陣地 冥加金五拾圓
- 一 得度後三年目餘間出仕 冥加金五拾圓
- 一 餘間出仕後三年目准内陣出仕 冥加金五拾圓
- 一 院家地 冥加金五拾圓
- 一 得度翌年餘間出仕 冥加金五拾圓
- 一 餘間出仕後三年目内陣出仕 冥加金五拾圓
- 一 内陣出仕後三年目准素絹出仕 冥加金七拾五圓

第六條 前條ハ該寺正副住職ノ眞子弟ニ限リ異姓ノ一般衆徒ニ適用スルヲ許サス

第七條 正副住職ノ眞子弟ハ第五條ノ特許ヲ得ヘシト雖モ該寺正副住職現時ノ堂班ニ踰ルコトヲ許サス

第八條 願書ハ左ノ式ニ依ルヘシ

甲號書式略ス

○告達第十五號 明治二十一年五月五日

院家地慣例中左ノ通更定ス

一別助音地正副住職及候補衆徒ハ院家繼席四箇年目以後伺ノ上總助音ヲ許ス

但別助音ノ許可ハ各寺ノ先例遲速定ラサルヲ以テ別ニ年限ヲ定メス

且寺例ニヨリ總助音ヲ經ス直ニ別助音ヲ許スコトモアルヘシ

一素絹地へ總助音ヲ許スハ自今一種特許ノ恩典トシ多年參勤ノ法薦アル者ニ限り許可スルモノトス

○乙第一號 明治二十年一月八日

助音地以上末寺中

助音地寺跡左之通被定候條此段相達候事

但此他從前恩許有之向ハ此限ニアラス

翌年内陣列座

翌年内陣本座

上局直達

奥參上

金入輪袈裟

金入咒字袈裟茶紐

助音

○乙第二號 明治二十年一月十八日

助音地以上末寺中

別助音地一般寺跡中へ上局直達被差加候條此段相達候事

○告達第十六號 明治二十一年五月五日

助音地待遇左ノ通相定ム

一 得度ノ儀式ハ別助音ニ准ス

一 寢殿拜謁ノ席ハ別助音ニ准ス

○告達第六號 明治二十二年二月九日

餘間地以上ノ眞子弟ニシテ明治二十年九月告達第二十二號未滿繼席並一

般衆徒堂班出仕特許條例第五條ニ依リ准餘間出仕出願難致者ハ願ニ依リ  
飛擔出仕ヲ許可ス

但異姓一般衆徒ニ適用スルヲ得ス

飛擔出仕 冥加金拾五圓

明治二十年告達第二十二號(報告二十七號)抄録

第五條 餘間地以上正副住職ノ眞子弟ニシテ該寺ノ一般衆徒タル者第八  
條乙號書式ノ所出願スルトキハ左項ニ照シテ堂班出仕ヲ許可スル者ト  
ス(項目略ス)

○告達第十九號 明治二十一年五月二十八日

事故有之住職ヲ差解タルモノ、座班ハ其身出仕ノ堂班ノ常末トス

○局第三號 明治二十一年三月二十九日

明治二十年十月告達第二十二號第五條ニ準シ飛擔地正副住職ノ眞子弟ニ  
シテ該寺ノ一般衆徒タル者ニ限り願ニ依リ准飛擔出仕ヲ許ス

但異姓一般衆徒ニ適用スルヲ得ス

准飛擔出仕 冥加金拾五圓

(參照)明治二十年九月告達第二十二號未滿繼席並一般衆徒堂班出仕條例  
中(報告第二十七號登錄)

第五條 餘間地以上正副住職ノ眞子弟ニシテ該寺ノ一般衆徒タル者第八  
條乙號書式ノ所出願スル時ハ左項ニ照シテ堂班出仕ヲ特許スルモノト  
ス(項目及ヒ書式略ス)

○告達第三號 明治二十七年六月二十三日

院家寺跡中巡贖地ノ次別助音地ノ上ニ別格中緒地ノ一類ヲ設ク

○告達第十四號 明治三十七年五月二十八日

本年八月一日以後堂班繼席年數未滿ノ者ハ依願出仕ヲ特許セラル

○告達第二十一號 明治三十八年十二月五日

院家座席條規

第一條 院家ノ座席ヲ九等ニ分チ一等席ヲ首トシ乃至九等席ヲ末トス

同席中ノ座次ハ繼席ノ前後ヲ以テシ同年月日ノ繼席ハ年齢ノ長幼ヲ以  
テ其首末ヲ定ム

第三條第四條寺跡法蔵ニ對シ進席ノ者ハ進席許可ノ日ヲ以テ繼席ノ座

次トス

- 一等席 五箇寺ニシテ導師許可ノ者
- 二等席 五箇寺巡讀地ニシテ巡讀許可ノ者
- 三等席 國巡讀地ニシテ國巡讀許可ノ者
- 五箇寺巡讀地ニシテ別助音許可ノ者
- 四等席 國巡讀地別格由緒地准由緒地ニシテ別助音許可ノ者
- 五等席 正准一等別助音地ニシテ別助音許可ノ者
- 六等席 正准二等別助音地ニシテ別助音許可ノ者
- 七等席 別助音地ニシテ別助音許可ノ者
- 八等席 助音地以上ニシテ助音許可ノ者
- 九等席 素絹出仕許可ノ者

第二條 其身一代巡讀特許ノ者ハ二等席トス國巡讀特許ノ者ハ三等席トス

自國別院法要中巡讀特許ノ者ハ其法要中ニ限リ三等席トス  
 其身一代別助音特許ノ者ハ七等席トシ助音特許ノ者ハ八等席トス

第三條 寺跡ニ對シ座席陞進ノ年限左ノ如シ

但シ出願ノ上許可セラル、モノトス

○告達第二十二號 明治三十八年十二月五日

明治三十二年告達第二十號 僧綱僧位堂班對配並座次左ノ通改正ス

僧正	上座	權僧正	准上座
大僧都	院家四等席	權大僧都	院家五等席
僧都	院家六等席	權僧都	院家七等席
律師	院家八等席	權律師	素絹
法師位	內陣	滿位	餘間
入位	飛擔		

- 一 僧綱僧位ニ補セラレタル者ノ堂班座次ハ同堂班中ノ首座トシテ其席次ヲ定ムルコトハ補任ノ年時等級ノ高卑ニ依ル等級年時俱ニ同キ時ハ繼席ノ前後ニ依ル
- 一 上座及准上座ノ座次ハ僧綱僧位ノ等級ニ關セス出仕恩許年時ノ前後ヲ以テス



- 一 對配ニ依リ堂班ヲ進ム者ハ出願ノ上在綱在位中ノ出仕並ニ衣體ヲ許可スル者トス
  - 一 大僧都ニシテ對配院家四等席出仕許可ノ上滿十年ニ至レハ願ニ依リ院家二等席トス
  - 二 前二項ノ許可ヲ得テ堂班ヲ進ム者ノ座次ハ其出仕許可ノ年時ニ依ル
  - 一 從前律師已上堂班對配出願許可ノ者ハ本則規定ノ等席ニ依ルモノトス
  - 一 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ從前ノ規定細則及本則ニ牴觸スル其他ノ規則ハ總テ廢止ス
- 告達第二十三號 明治三十八年十二月五日
- 本年告達第二十一號院家座席條規並告達第二十二號僧綱僧位堂班對配ニ依リ院家八等席許可ノ者ニハ助音ヲ同七等席以上許可ノ者ニハ別助音ヲ願ニ依リ許可シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 但從前等席ノミ許可ノ者ハ直ニ出願許可ヲ經ヘシ

- 告示第三號 明治三十六年一月二十一日
- 僧綱位對配堂班出仕許可ノモノニシテ更ニ其寺々蹟堂班纏席ニ引直サントスルトキハ各繼席願(餘間内陣院)家ノ次第ニ對スル去繼席分ノ禮金全額ヲ一時ニ上納スヘシ
- 但シ他寺へ移轉シタルモノモ此例ニ依ル
- (參考)
- 入位對配 飛擔出仕
  - 滿位對配 餘間出仕
  - 法師位對配 内陣出仕
  - 權律師對配 素絹出仕
- 内達甲第六號 明治三十九年五月一日
- 自今大僧都以下ノ上座本席出仕ノ場合ハ定衆ノ指揮ニ屬セシム
- 内達甲第七號 明治三十九年五月一日
- 定衆(本役)在役中上座出仕恩許ノ者ニシテ一代上座ニ引直スハ在職滿十五年以上ニ限ルモノトス

第二章 衣體並服制

第一款 堂址及座席ニヨル衣體

○告達第十七號 明治二十四年十二月二日

助音地以上へ特別ヲ以テ許可スヘキ衣體色目左之通相定ム

但許可ノ手續ハ別ニ内規ヲ以テ之ヲ定ム

五箇寺

花橘色素絹道服

巡禮地

蒼菊色素絹道服

別助音地

濃桑色素絹道服

助音地

柳色素絹道服

○告達第七號 明治二十四年四月二十八日

自今特別ヲ以テ外陣へ願ニ依テ異紋綴子松葉色白菊唐草模様一色五條裂

裝着用ヲ許可ス

但禮金貳圓

○告達第十七號 明治三十二年四月十日

餘間以上堂班相當衣體許可濟ノ者ニ限り自今願ニ依リ左記ノ衣體一般着

明治二十五年告達第二號ヲ以テ一定

明治四十年一月告達第一號ニヨリ改定

用ヲ許可セラル

但冥加金參圓

一 黒染色飛紋

丸龍 四齋 紗綾地直綴

○告達第四號 明治三十三年二月六日

正准一等 別助音地 薄木陶色素絹道服五條

正准二等 別助音地 枳葉色素絹道服五條

○告達第五號 明治四十年六月

今般國許准上座許可ノ者ニ左ノ衣體ヲ願ニ依リ國許限着用スルコトヲ許

ス

一 薄栗皮色素絹道服

一 附色大紋差貫

○告達第二號 明治三十九年二月二十四日

明治三十八年告達第二十三號ニ依リ助音許可ノ者へ柳色特別衣體ヲ別助

音許可ノ者へ濃桑色特別衣體ヲ願ニ依リ許可シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八類 衣體並服制

○庶務部告示第二號 明治四十年七月十九日  
本年告達第七號ヲ以テ堂班衣體等許狀樣式改正ニ付堂班衣體許可品目並  
色目指令ニ記載セラレサルニ依リ左記ノ通相心得ヘシ

平僧 平絹色袈裟 紅紫淺黃ノ三色ヲ除ク  
水淺黃色同色唐草輪袈裟 本山並別院ヲ除ク

外陣 法附服 黑 黑  
淺黃染色 平絹  
同色絞織子 紅紫ニ紛敷ヲ除ク  
水淺黃色同色唐草

飛擔 法附服 黃梔子 二十歳未満ノ者ハ本山ヲ除ク外  
黑染色 平絹  
淺黃染色 平絹  
茶地同色絞織子 紅紫萌黃ニ紛敷ヲ除ク

堂衆 法附服 濃鼠染色 平絹  
淺黃染色 平絹  
茶地同色絞織子 紅紫萌黃ニ紛敷ヲ除ク

餘間 法附服 淺黃色 平絹  
同染色 平絹  
異紋絞織子

内陣 法附服 鵝茶色 平絹  
同染色 平絹  
異紋絞織子

院家 法附服 萌黃色 平絹  
同 平絹  
紫紋白 平絹  
咒字袈裟 茶紐  
輪袈裟 異紋絞織子

○所達第十二號 明治二十九年七月二十二日  
法要之節堂班席次取調上ノ便宜ヲ計リ自今願ニ依リ堂班衣體證明券ヲ下  
附ス

但出願ノ際院家以上ハ金五錢内陣餘間ハ金參拾錢飛擔以下ハ金貳拾

第八類 衣體並服制

五一七

錢ノ冥加金ヲ添フヘク又證明券下附ノ後堂班教師等昇進又ハ衣體等ノ許可ニ依リ更ニ登記ヲ請フモノハ其都度金貳拾錢ノ冥加金ヲ納ムヘシ

○庶務部達第一號 明治二十九年七月二十二日

從來別院又ハ他ノ組内ニ於テ法要參勤ノ節ハ堂班衣體等ノ許狀持參スヘキ筈ノ處數通ノ許可狀ヲ携帶スルハ紛失ノ恐レモ有之且座次ノ調査上ニモ手數尠ナカラス依テ今回便宜ノタメ各自ノ願ニ依リ堂班衣體證明券ヲ下附セラルヘキ旨所達第十二號ヲ以テ被達タルニ付右出願ノ手續別冊ノ通り相定ム

(別冊)

堂班衣體證明券出願手續

第一條 堂班衣體證明券ヲ願フモノハ本人現時ノ堂班及ヒ衣體ノ許可年月日又教師ハ補任ノ年月日其他助音別助音等ノ恩免ヲ蒙リタル者ハ許可ノ年月日ヲ詳細願書ニ列記スヘシ  
第二條 此券ノ下附願書ニハ組長ノ奥印ヲ要セス但前副住職及衆徒ノ願

書ニハ該寺ノ住職連署スヘシ

第三條 此券ヲ受領シタル後本人堂班及ヒ教師ノ等級昇進スルカ又ハ寺例ニ依リ衣體或ハ助音別助音等ノ許可ヲ蒙リタルトキハ其都度此券面ニ登記ヲ願出ヘシ

第四條 此券ヲ紛失シタルトキハ第一條及ヒ第五條ニ準シ再下附ヲ願出ヘシ

第五條 此冥加金ハ本人ノ都合ニ依リ郵便切手ヲ以代納スルモ苦シカラ

第六條 此券ノ下附願書式ハ強チ一定ヲ要セスト雖モ大略左ノ書式ニ準シ許可ノ品目及ヒ年月日等成ルヘク明瞭ニ列記シ點檢ニ便ナラシムル様注意スヘシ

第二款 記念恩許ニヨル衣體

○局達第二十六號 明治二十二年十月五日

御讓職御大禮ニ付特別ノ尊慮ヲ以テ今般一般末寺左之通恩許セラル  
上首及ヒ五箇寺へ

第八類 衣體並服制

青淺綠色衣素絹

本山ニ於テ着用

五箇寺住職へ

金紐紫紐入交咒字袈裟

其身一代一般着用

但金紐三筋限

藍海松色衣素絹

其身一代自坊限着用

巡讀地住職へ

金紐紫紐入交咒字袈裟

其身一代一般着用

但金紐二筋限

別助音地住職へ

綠金五條袈裟

其身一代一般着用

助音地住職へ

六藤袈裟紋

其身一代國許限着用

以上六項着用ハ伺出ヘシ

院家内陣餘間地住職へ

色直綴

其身一代一般着用

以上着用ハ願出ヘシ

堂衆一般並堂衆地住職へ

異紋緞子輪袈裟

其身一代着用

但非役ハ本山ヲ除ク

飛擔地住職へ

茶漉子同色紋輪袈裟

其身一代一般着用

外陣地住職へ

水淺黃同色唐草輪袈裟

其身一代着用

但本山ヲ除ク

平僧地住職へ

水淺黃同色唐草輪袈裟

國許限着用

但別院ヲ除ク

以上四項着用ハ出願ニ及ハズ

○局達第十號 明治二十八年三月十三日

御遷佛御遷座御大禮ニ付特別ノ尊慮ヲ以テ末寺一般へ左ノ通恩許セララル

第八類 衣履並服制

苔菊色黃紋法服

五箇寺

苔菊色同色紋法服

巡讚地

裏山吹色同色紋法服

別格由緒地

濃桑色同色紋法服

別助音地

柳色同色紋法服

助音地

以上特別衣體許可ノ者ニ限ル

萌黃色直綴一般着用

院家

鶉茶色直綴一般着用

內陣

淺黃色直綴一般着用

餘間

以上色直綴許可ノ者ニ限ル

土器色直綴

堂衆地

但本山別院ヲ除ク外一般着用

緞子輪袈裟一般着用

飛擔

水淺黃色同色紋輪袈裟一般着用

外陣

水淺黃色同色唐草輪袈裟

平僧

但本山別院ヲ除ク外一般着用

○告示第七號 明治三十四年二月二十五日

御眞影御遷座三百年紀念法會御執行ニ付東京堂班出仕ノ者ニ限リ特別ノ尊慮ヲ以テ左之通恩許可被遊旨申出サル

院家以上ノ者

薄鼠色地鶴丸綠金紋白平金業平菱五條袈裟

內陣及餘間ノ者

薄鼠色地鶴丸綠茶紋白茶色業平菱五條袈裟

○内達乙第三號 明治三十四年三月十三日

御眞影御遷座三百年紀念法會ニ付堂衆ニ特別ヲ以テ願ニ依リ左ノ通五條袈裟着用ノ儀許ルセラル

堂衆老分雁鳩羽綠金特別五條許可ノ者

一薄萌黃色落牡丹綠金紋白五條袈裟

右禮金百圓

一薄萌黃色落牡丹綠茶紋白五條袈裟

第八類 衣體並服制

右禮金五拾圓

同 中座以下

一薄萌黄色落牡丹紋白五條袷裝

右禮金參拾圓

○告示第十號 明治三十九年二月二十二日

今般左記ノ通明治三十七八年戰役紀念袷裝ヲ定メラレ本年四月御執行相成候前住上人十三年忌御法要並ニ明治三十七八年戰役病死者追弔法會ニ堂班出仕候者ニ限リ特別ノ尊慮ヲ以テ願ニ依リ着用恩許可被遊旨申出キ

白地正銀平金紋入交五條袷裝

金入五條袷裝一般着用許可ノ者

白地藤色紋五條袷裝

餘間以上ニシテ金入五條袷裝一般着用未許可ノ者

○所達第五號 明治四十一年十一月十日

今般御讓職御大禮ニ付特別ノ尊慮ヲ以テ一般末寺住職へ左ノ通其身一代

一般着用恩許セラル

但シ出願ノ上許可ヲ受クヘシ

五箇寺住職へ

疊袷裝 枯海松色金唐井筒大谷牡丹燃金紋

共威儀

巡讀地住職へ

疊袷裝 枯海松色金唐井筒大谷牡丹燃金白交紋

共威儀

國巡讀地住職へ

疊袷裝 枯海松色金唐井筒大谷牡丹平金紋

白威儀

別格由緒地住職へ

疊袷裝 枯海松色金唐井筒大谷牡丹平金緑金交紋

白威儀

准由緒地住職へ

疊袷裝 枯海松色金唐井筒大谷牡丹平金白交紋

白威儀

一等別助音地住職へ

疊袷裝 枯海松色金唐井筒大谷牡丹緑金紋

白威儀

准一等別助音地住職へ

第八類 衣禮並服制

疊袈裟 枯海松色金茶唐井筒大谷牡丹綠金紋 白威儀

二等別助音地住職へ

疊袈裟 枯海松色金唐井筒大谷牡丹綠金白交紋 白威儀

准二等別助音地住職へ

疊袈裟 枯海松色金茶唐井筒大谷牡丹綠金白交紋 白威儀

別助音地住職へ

疊袈裟 枯海松色白唐井筒大谷牡丹綠金紋 白威儀

助音地住職へ

疊袈裟 枯海松色白唐井筒大谷牡丹綠金白交紋 白威儀

院家地住職へ

咒字袈裟 枯海松色白唐井筒大谷牡丹茶紋 萌黃紐

内陣地住職へ

咒字袈裟 枯海松色同色唐井筒大谷牡丹茶紋 鵬茶紐

餘間地住職へ

咒字袈裟 枯海松色同色唐井筒大谷牡丹茶紋 淺黃紐

堂衆地住職へ

咒字袈裟 枯海松色同色同色唐井筒大谷牡丹茶紋 茶 紐

准堂衆地住職へ

輪袈裟 枯海松色同色唐井筒大谷牡丹茶紋

飛擔地住職へ

輪袈裟 枯海松色同色唐井筒大谷牡丹茶紋

外陣地住職へ

輪袈裟 枯海松色茶色唐井筒

平僧地住職へ

輪袈裟 枯海松色淺黃唐井筒

○訓示第二號 明治四十一年十一月十日

本年所達第五號ヲ以テ御讓職御大禮ニ付一般末寺住職へ疊袈裟等寺格ニ依リ恩許相成候ニ就テハ大谷牡丹紋章ハ勿論右ニ類似ノ者ト雖モ他ニ依用相成ラサル儀ト心得ヘシ

第三款 僧綱僧位補充者依用衣體

第八類 衣體並服制



○告達第二十四號 明治三十二年十月三十日  
僧綱僧位補授者依用五條袈裟并輪袈裟左ノ通相定△

- 一 雪ノ下色地金紋五條並輪袈裟 大僧正
- 一 紅木蘭色地紋金白入交五條並輪袈裟 權大僧正
- 一 花葉色地紋躑躅色金唐井筒五條並輪袈裟 僧正
- 一 芳丹色地紋躑躅色白入交金唐井筒五條並輪袈裟 僧正
- 一 紫貫白地紋檀色金鳥禪五條並輪袈裟 大僧都
- 一 紫貫白地紋檀色白入交金鳥禪五條並輪袈裟 權大僧都
- 一 紫貫白地紋紫色金鳥禪五條並輪袈裟 僧都
- 一 紫貫白地紋紫色白入交金鳥禪五條並輪袈裟 權僧都
- 一 紫貫白地紋青色白鳥禪五條並輪袈裟 律師
- 一 紫貫白地紋青色白入交白鳥禪五條並輪袈裟 權律師
- 一 萌黃色地紋薄藤色白鳥禪五條並輪袈裟 法師位
- 一 萌黃色地紋白茶色鳥禪五條並輪袈裟 滿位
- 一 萌黃色地紋白淺黃色鳥禪五條並輪袈裟 入位

○告達第一號 明治三十六年一月十日  
舊教導職及舊教師袈裟ハ嘗テ教導職又ハ教師ニ補任セラレシ者ニ限り自  
今一般着用ヲ許ス

明治三十二年告達第二十五號ハ之ヲ廢ス

第四款 裏服并似影

○告達甲第十二號 明治二十八年十二月九日

末寺僧侶裏服職左ノ通相定△

薄鼠色麻五條

黑麻袈附并直綴

但平僧ハ直綴ニ限ル

白麻切袴

青竹枝草鞋

苧總念珠

鈍色中啓

○丙達甲第十號 明治四十年六月一日

第八類 衣體並服制

自今八葉牡丹家級及六藤家級寺跡許可ノ寺院へ左記ノ區分ニ依リ似影袈  
裝紋ヲ許可ス

一八葉牡丹家紋寺跡ノ寺院ニシテ同袈裝紋着用恩許ノ者ハ八葉牡丹紋  
白紋入交袈裝

一六藤家紋寺跡ノ寺院ハ六藤紋白紋入交袈裝

○内達甲第十號 明治三十九年十二月二十八日  
自今權僧正以上ニシテ功勞ニ對シ特ニ似影下賜ノ者ニ限リ僧綱相當ノ袈  
裝ヲ許可ス

第五款 雜 令

○局達第二十五號 明治二十三年九月十三日  
堂班餘間以上ノ身分ニシテ末寺支坊並ニ末寺所屬說教場等ノ留守居タル  
モノハ該留守居中飛擔相當衣體ノ外着用ヲ許サス

但飛擔以下ノ者ハ其身堂班相當衣體ヲ着用スヘシ

○告達第二十二號 明治二十三年十二月十日  
明治十年三月甲第二十四號ヲ以テ本山ニ於テ鶴ノ丸紋袈裝等依用ノ儀可

差控旨相達候處自今一般依用相成ラズ

(參照)(配紙五二八葉)

甲第二十四號 明治十年三月十七日

鶴丸紋依用ノ儀從前餘ノ間以上ノ輩へ許可致來候處自今法主殿御依用  
相成候ニ付本山ニ於テ該紋袈裝等着用ノ儀差控候處可致此旨相達候事

○明治十一年九月八日

式 務 課

堂僧ニシテ權少講義以上補任ノ者職級相當堂班出仕並、衣體着用共依願  
許可相成候得共役務中座席衣體ノ儀左ノ通相定候條此段相達候事

但役務外法用等勤務ノ節ハ此限ニアラス

一 座席之儀ハ從前ノ通堂僧申付之順次著座之事

一 衣體ノ儀ハ職級相當袈裝ノ外總テ堂僧ノ衣體着用之事

○明治十一年三月二十四日

式 務 課

樂僧衣體色目之儀自今薄墨色ニ改定候條此段相達候事

第八類 衣體並服制

○甲第十一號 明治十三年四月十四日

總末寺中

末寺中元五ヶ寺等ノ縁故ヲ以テ本山ノ紋章ニ類似セル家紋ヲ讓受候儀ハ相互ノ契約ニ出ルト雖右紋章ハ私用ニ止リ決テ法衣ニ付シテ着用候儀不相成候條此段相達候事

但從前讓受已ニ屆濟ノ分ハ此限ニ非ス

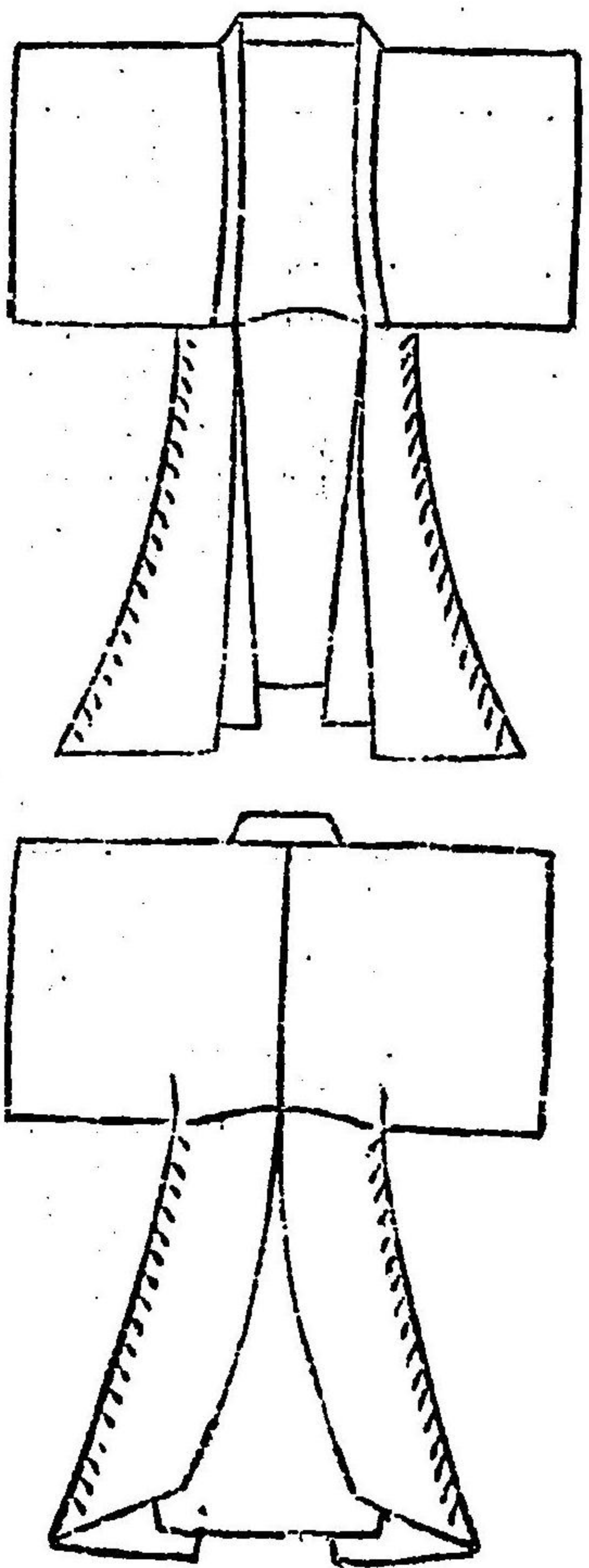
○甲第二號 明治十六年十月十六日

略服制定ノ件

今般別紙雜形間衣ノ裁制ヲ一定シテ略服トシ僧侶一般着用ヲ許ス

但略服ノ節ハ輪袈裟ヲ着スヘシ

右稟令皆達候事



間衣 黒色 地合 紹 紗 五日市

紐并ニナシ 黒色ニ限ル

但紋紗衣免許ノ輩ハ紗綾有紋冬袍等勝手タルヘシ

○局達第拾參號 明治二十八年三月二十八日

五ヶ寺ノ縁故ニヨリ其家紋ヲ讓リ受ケ候者法衣ニ付シ着用不相成儀ハ明治十三年甲第十一號達ノ次第モ有之候處近來右達前ニ違背シ濫用候者不慚不都合ノ儀ニ付自今堅ク之ヲ禁止ス

第八類 衣體並服制

但明治十三年四月以前屆濟ノ者ハ此限ニ非ス

△告達第七號 明治四十年六月

左記各種ノ堂班并衣體等許狀樣式ヲ指令ニ改正シ來八月一日ヨリ施行ス

- 一 堂班繼席并出仕願 一 進席願
- 一 僧綱僧位堂班對配願 一 飛紋紗綾黒直綾願
- 一 助音地以上特別衣體巴目引直願
- 一 同上繼目願 一 色裳附願
- 一 色直綾願 一 得度願 (衣體許狀)
- 一 准階堂班正階引直願 一 式歎徳文拜讀并傳授願
- 一 御傳鈔拜讀并傳授願 一 白威儀墨袈裝着用願
- 一 別院列座役中飛擔願 一 五個寺役僧履中飛擔衣體願
- 一 堂衆地特別衣體願 一 同上成替願
- 一 同上裏書願 一 外陣異紋綾千五條願
- 一 尼衣願
- 以上總テ願書ニ通

### 第三章 役務衣體

#### 第一款 役輪袈裝

○告達第二十二號 明治三十五年六月

明治三十一年告達乙第 號左ノ通改正ス

第一條 寺務所員定衆堂衆及寺務出張所員役輪袈裝ヲ定ムルコト左ノ如

- 寺務總長 紅栗皮茶色地平金雲形捨金八藤紋
- 夾 輔 但連枝ニシテ就職シタル時ニ限ル
- 各局部長 銀鼠色地平金雲形捨金丸龍紋
- 財務顧問 紺色地平金雲形捨金丸龍紋
- 上局員 銀鼠色地平金雲形捨金丸龍紋
- 親 授 萌黃色地同色散雲綠金丸龍金紋
- 稟授録事 萌黃色地同色散雲丸龍金紋
- 承 事 柳茶色地同色散雲丸龍茶紋
- 例 授 紺色地同色濃花田菱繻紋

#### 第八類 役務衣體